令和４年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

＜総括表＞

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します

益田市政策企画局連携のまちづくり推進課

もくじ

(1) 令和４年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 5
(3) 吉田地区	P. 6～P. 9
(4) 高津地区	P. 10～P. 12
(5) 安田地区	P. 13～P. 16
(6) 鎌手地区	P. 17～P. 20
(7) 種地区	P. 21～P. 24
(8) 北仙道地区	P. 25～P. 28
(9) 豊川地区	P. 29～P. 32
(10) 真砂地区	P. 33～P. 36
(11) 西益田地区	P. 37～P. 40
(12) 二条地区	P. 41～P. 42
(13) 美濃地区	P. 43～P. 44
(14) 小野地区	P. 45～P. 48
(15) 中西地区	－（配置なし）
(16) 東仙道地区	P. 49～P. 52
(17) 都茂地区	－（配置なし）
(18) 二川地区	－（配置なし）
(19) 匹見上地区	P. 53～P. 56
(20) 匹見下地区	P. 57～P. 59
(21) 道川地区	P. 60～P. 63
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 64～P. 65

【地域魅力化応援隊員とは】
総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区に配置しています。

令和４年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田公民館	益田地区	石川　祐子	令和４年４月
2	吉田公民館	吉田地区	石田　令子	平成 30 年４月
3	高津公民館	高津地区	梅津　梨紗	平成 29 年４月
4	安田公民館	安田地区	尼子　達夫	平成 27 年５月
5	鎌手公民館	鎌手地区	佐々木　浩臣	令和４年７月
6	種公民館	種地区	有田　学	令和３年 ４月
7	北仙道公民館	北仙道地区	岡本　堂里	令和４年７月
8	豊川公民館	豊川地区	岡﨑　友臣	平成 26 年４月
9	真砂公民館	真砂地区	岸本　真樹	平成 27 年８月
10	豊田・西益田公民館	西益田地区	大畑　咲絵	令和元年 ６月
11	二条公民館	二条地区	堀江　宗仁	平成 29 年４月
12	美濃公民館	美濃地区	大庭　真弓	令和４年 １月
13	小野公民館	小野地区	宮内　英之	平成 30 年４月
14	東仙道公民館	東仙道地区	青戸　美奈子	平成 28 年４月
15	匹見上公民館	匹見上地区	檜谷　望	令和３年４月
16	匹見下公民館	匹見下地区	寺西　泰一	令和４年 ９月
17	道川公民館	道川地区	高田　純子	平成 26 年４月

計 17 名

益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　石川　祐子

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

１．配置部署

益田公民館

２．配置年月

令和４年４月から

３．活動の概要

①活動の内容

〈全体〉

・役員会　計８回（見込み含む）
・定期総会書面評決書　集計、作成
・協議会だより　奇数月に発行
・公民館移設について市に要望書提出
・ホームページ講習会
・監査会

〈歴史部会〉

・歴史部会会議　計６回
・第２回日本遺産スタンプラリー
・安来市月山富田城視察（予定）

〈ふれあい部会〉

・ふれあい部会会議　計５回（見込み含む）
・益田おやこ劇場「たっちゃんの紙芝居」
・益小プロジェクト

〈安心安全部会〉
・安心安全部会会議　計４回（見込み含む）
・自主防災勉強会　計２回

②活動の成果及び効果

協議会の活動内容を紹介するため「協議会だより」の発行を昨年より増やしたり、ホームページの充実を図ってきた。

安心安全部会では、今年度ＮＰＯ法人防災支援センターの桂木正則さんに講師をお願いし、自治会を対象とした自主防災勉強会を２回開催した。自主防災組織を立ち上げるには難しい問題もたくさんあるが、地域の皆さんが安心して暮らせるような活動をしていきたい。

ふれあい部会では、益小プロジェクトを部会の事業として取り組んでおり、今年度は「お祭り」をテーマに益田小学校６年生有志１７名が自分たちで考え、消しゴムハンコ、食べ物コーナー、ゲームコーナーに分かれ、準備などを工夫し行った。たくさんの来場者の方たちとも交流した。その経験は参加した６年生にとっても関わった大人にとってもとても良い学びになったと思う。

歴史部会では、昨年度に引き続き「第２回日本遺産スタンプラリー」を東中学校と協働で開催した。感染対策のため定員を１００名とし、五月雨式のスタート、ゴールにしたことで密にならず進行することが出来た。中学校１年生全員がスタッフとして参画し、当日だけでなくポスター作りやガイドの勉強なども行った。他の部会員や地域の皆さんの協力もあり、無事終えることが出来た。アンケートの結果も好評で、来年もやってほしいという声も多く見られた。

４．残された課題と今後の提案

地域自治組織を立ち上げてから４年目になるが、まだまだ認知度も低く、協議会に関わっている人もごく一部の人だけという現状で人口の減少、高齢化や核家族化の影響か伝統や地域活動の担い手不足が深刻な問題となっている。昨年度から取り組んでいる「スタンプラリー」や今年度開催した「益小プロジェクト」など分かりやすいイベントを通して地区民の皆様に協議会のことを少しずつでも知ってもらえるような活動を続けていきたい。益田地区は保育園、幼稚園、小学校、中学校をはじめ唯一高校が３校もある地区なので子供から、その親の世代を巻き込みながら少しずつでも若い世代を増やしていければと思う。

来年度は５年目ということもあり、まちづくりプランの見直しをする必要があるので、各部会で話し合ってまとめていきたい。

５．地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度から益田地区の応援隊員として勤務することになり、最初は今までと体制がかなり変わり戸惑うことばかりでしたが、主事さん方や周りの方々に助けられながら事務仕事に追われ、あっという間に過ぎたという感じでした。

来年度も新型コロナウイルスの影響がまだまだあると思いますが、少しでも益田地区の発展に貢献できたらと思っております。

吉田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　石田　令子

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

吉田地区

2.　配置年月

平成３０年４月

3.　活動の概要

①　活動の内容

・地域自治組織の活動支援及び組織運営の支援

・地区住民等と連携して地域課題の整理、情報の共有化を図り、住民自治機能の充実や機能強化を支援

・まちづくりプラン等の策定支援

・公民館との連携、各種研修会に参加

②　活動の成果及び効果

(1) 総会、役員会、各部会議の開催を支援

・令和４年度事業実績報告書作成の支援

・令和５年度活動計画策定の支援

・会議資料作成および会場設営の支援

(2) 安心安全なまちづくり部会防災班の活動を支援

・第１回吉田地区防災協議会（６月１１日）

ワークショップ「避難を考える」を開催。２３自治会より防災担当者２７名が参加し、環境が似ている自治会でグループワークを行った。避難のタイミングと声掛け、一時避難所、ペットへの対応について意見交換した後、話し合ったことを発表。今回のワークは次のテーマ「自治会間の協力」へとつながる。

・中吉田自治会防災訓練（１１月１２日）

講演「益田市と洪水の歴史」（桂木正則運営委員）の後、各組で避難路を検討するとともに各自マイタイムラインを作成。中吉田自治会からは４５名が参加し、防災班運営委員（５名）と防災士会（２名）がワークをサポートした。防災

班では自治会の防災訓練（特に合同防災訓練）を広めていきたいと考えている。

・第２回吉田地区防災協議会（１１月１６日）

益田川ダムと今市川樋門を視察。１２自治会より防災担当者１４名と益田市社会福祉協議会職員２名が参加した。それぞれの施設で県の担当職員から説明を受けた。吉田地区は内水氾濫が発生するので、樋門の管理については今後の課題となった。

(3) 安心安全なまちづくり部会安全班の活動を支援

・子供の登下校の見守り活動普及運動「吉田の見守りＥｙｅ」（１０月１３日）

自治会、学校、PTA、児童民生委員、交通安全協議会などの有志約２５０名が参加し、一斉見守り活動を行った。その際に気が付いた危険個所の情報を各所管へ提出し改善を求めた。

(4) 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会にぎわい班の活動を支援

・チャレンジフェス！開催（１０月２３日）

コロナ禍により子どもたちの発表の場が激減しているので、チャレンジする機会を与えたいとにぎわい班が企画。子どもたちは演技発表だけでなく、ポスター制作から司会、告知放送まで担った。出演者を含め約１００名が参加。このフェスを子どもたちの育成の機会にしたいと、運営委員から意見があった。

(5) 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会歴史文化班の活動を支援

・歴史茶話会開催（毎月）

月に一度、土曜日の午後に歴史茶話会を開催。埴輪をとおして古墳時代の暮らしについて学んだ。時には会場を自治会集会所へと移し、地域住民も参加しやすい工夫をした。茶話会では、毎回、飲み物とお菓子を準備し、和やかな雰囲気で歴史について語り合える場を作った。

(6) 健康なまちづくり部会の活動を支援

・吉田の町再発見!!健康ウォーキング（６月４日、１１月６日）

住民の交流と体力向上を目指して健康ウォーキングを開催。当日は会場設営、飲み物購入、写真撮影を担当した。

春：中島・大塚・中須・かもしま史跡名所めぐり３ｋｍコース（６月４日）
６０名参加

秋：久城史跡名所めぐり５ｋｍコース（１１月６日）２３名参加

・健康教室「リズム遊び」（１月２０日、１２月４日）

エレクトーンや打楽器のリズムに合わせて身体を動かし、楽しみながら健康増進を目指す。２日間で延べ４０名が参加。「リズム遊び」は初めての試みだったが、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が参加した。講師との打ち合わせ、会場設営等を支援した。

(7) 研修会に参加

・東部・西部社会教育研修センター主催「ファシリテーター養成講座」全３回コースを受講した。

残された課題と今後の提案

① 組織運営

・設立２年目ということもあり、設立後に参加した運営委員さんは自治組織への

理解が低い。年に１回は、役員・運営委員の全体会議を開いて、組織について確認するとともに、自由な意見交換の場づくりを提案している。

・幅広い世代の住民の意向が取れていない。多世代の意見を反映できる工夫（アンケートや意見交換の場づくり）をするよう提案したい。

② 安心安全なまちづくり部会

・防災班運営委員会では活発な意見交換が行われ、新しい提案が多く出ている。多くの運営委員がさらに動きやすくなるように、内容によってプロジェクトを組み、プロジェクトリーダーに任せてみることを提案したい。

③ 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会

・「歴史文化班」と「にぎわい班」があるが、それぞれの方向性が定まらず、班の特性を生かせていない。部会の活動内容についてさらに検討することを提案したい。

④ 健康なまちづくり部会

・健康なまちづくり部会の活動は「健康ますだ市２１」や各自治会の健康ウォーキング等の活動と重なるため、自治組織として何をすればいいのかが悩みだ。他の団体と連携を取りながら、住民全体の健康向上を目指すことを提案したい。

4.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度も新型コロナ感染症の影響はあったが、感染対策を行いつつほとんどの事業を遂行することができた。昨年は初年度ということもあり、住民が直接意見交換できる機会は少なかったが、今年は住民が集まり意見を述べ合うことができた。その一方で、活動に参加する人が増えるほど様々な意見が出るので、役員や運営委員は大変だったと思う。

設立２年目はまだ運営体制を整える時期だと思うが、すでに今後へ向けての提案が多く出され活動が広がりつつある。令和５年度は、より多くの住民が参加しやすい基盤を作るとともに、住民のつながりがほどけないように注意したい。この１年間、応援隊員の活動ができたことは、つながりを大切にする皆さんのお蔭だと感謝している。

高津地区

地域魅力化応援隊員　氏名　梅津　梨紗

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

高津公民館

2.　配置年月

平成２９年４月から

3.　活動の概要

①　活動の内容

＜全体として＞

・会の方針である「目の前の課題へ、出来る事から」具体的に取り組んだ。

・情報発信の手段として会報を２回発行（２月時点）、高津公民館内に、万葉の里高津未来の会の掲示コーナーを設置。会議や活動等の様子を随時ＳＮＳでも発信、告知端末放送も活用し、こまめな情報発信を心がけている。

・本会のスタッフジャンバーを作成中。今年度中に完成予定。

＜部会活動＞

◆歴史・伝統文化の薫るまち部会

・昨年度に引き続き高津公民館と共催で和太鼓事業を行った。今年度は新しく３名が加わり、小学生１名、中学生２名、翔陽高校生２名、益田高校生３名、明誠高校生１名、計９名で和太鼓を打ち、ホーランエー神事の船出前の活気づけ・盛り上げを目的とし事業のスタートを切った。講師には、今福優さんを招聘し、浜地区にある連理松センターで稽古を５回行った。

　ホーランエーに向け稽古を始めたが、コロナ感染症流行の影響で今年も中止となった。その為、披露の場を昨年同様、萩・石見空港マラソンに切り替え、稽古でお世話になった連理松センターの近隣住民と、マラソン会場の大勢のランナーに和太鼓で元気を届けた。

（連理松センターにて）

（萩･石見空港マラソン会場にて）

・まちづくり活動特別補助金を活用し、柿本人麿の終焉伝承を継承する事業に取り組む。（６５０年余年間人麿の御神像が祀られていた松崎の郷に、そのことを表す

石碑、説明板、想像図の３点を設置予定）

・今年度のデジタルアーカイブ事業は、益田市と県立大学が結ぶ「共同研究事業」を活用して活動を進めることができた。今年度は、ホーランエーと高津餅つき音頭の撮影を行い、SNS で公開中。

　デジタル化されたホーランエーは、高津小学校３年生の総合学習の中で実際に活用され、学習発表会でホーランエー音頭を子ども達が披露した。

・柿本神社や門前町の景観の妨げとなっている「高津柿本神社前の案内標識撤去」について県土木へ要望し、案内標識が撤去された。

◆安全・安心なまち部会

・毎日の見守り活動（朝・夕の児童・生徒の登下校）を軸に日々活動を行っている。

・小学校からの依頼で校外学習時の活動中の見守り

・昨年度、小学校裏の通学路がぬかるむため真砂土を入れた施工箇所に車が乗り入れぬかるむため、注意喚起の看板を小学校と共に設置した。

・地域からの要望により「飛び出し注意」の看板を設置。高津地区交通安全対策協議会の協力により設置することができた。

・JR 線長者原踏切周辺の草木が生い茂り、見通しが悪いため、JR に要望し除草作業を行った。

・翔陽高校３年生の課題研究の１つとして実施されたハザードマップ作りにユタラボ、連理松センター、益田警察と共に参加。高津小学校の４年生から６年生を対象とされ、児童と共に小学校から連理松センターまでを歩き危険箇所の確認を行い、ハザードマップを作製した。

◆つながり部会

・９月２４日に高津柿本神社を中心に開催した「万葉の里ひとまろフェスタ」における「ひとまろつながりマルシェ」を実施。約３０００人の集客となった。

　マルシェを通し、異世代間交流の中で顔の見える関係づくりへの一歩となった。

② 活動の成果及び効果

・昨年よりも万葉の里高津未来の会が認知され、地域の課題解決を目指すための相談を持ち掛けられるようになった。

・デジタルアーカイブ事業の成果物「高津デジタル博物館」 が小学校で活用された。

・和太鼓で地域に元気を届けた。観客から直接子ども達へ「元気をもらえた！」「ありがとう！」など嬉しい声が届けられた。来年度も継続を目指す。

・柿本神社・門前町の景観の妨げとなっている案内標識撤去を地元住民と共に県土木へ要望し、地域の思いが叶った。看板が撤去されたことで楼門から門前の町並みが一望できるようになり、景観が良くなった。
・毎日の子どもの見守り、ウォーキングをしながらの「ながら見守り」などを呼びかけ、日々の地域の安全・安心なまちづくりを実践している。
・地域からも子どもの見守り等に関する相談が持ち掛けられるようになった。
・JR 線長者原踏切周辺の除草作業を JR へ要望し見通しがよくなった。お陰で、安全な状態が保たれている。
・万葉の里ひとまろフェスタの「ひとまろつながりマルシェ」にて、異世代間交流をとおし、横のつながり、顔の見える関係、人と人との繋がりの根本的な関係づくりをねらった。地域からも、久しぶりの賑わいとなり喜ばれた。

③ 残された課題と今後の提案
・情報発信の徹底・住民周知
・今後も部会でしっかりと協議し、役員会で３部会の活動内容等を共有しながら事業を進めていく。
・今後は活動の幅を広げるためにも、一緒に活動してくれる人が１人でも増えてくれることを願う。
・来年度がまちづくりプランの３年目となる。３年間のまとめの年となるよう、また、次のまちづくりプランを構築していく年として各部会や役員会でしっかり協議していきたい。

4.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

万葉の里高津未来の会が設立されて２年、今年度もコロナ禍ということもあり、思うような活動がしにくい状況ではあったが、設立当初からの「目の前の課題に、出来ることからコツコツと！」をモットーに活動してきた。
今後も、役員・部会の皆さんが中心となって、試行錯誤しながら活動していきたいと思う。来年度は、役員改選や、令和６年度に向けてのプラン見直しの年でもある為、より密な話し合いが必要となると考えます。先々を見据え、よりよい話し合いができるよう努めたい。

安田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　尼子　達夫

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

安田公民館

2.　配置年月

平成２７年５月から

3.　活動の概要

①　活動の内容

・平成２９年３月１８日に臨時総会を開催し地域自治組織を立上げ、平成２９年４月２４日（日）総会を開催し「地域自治組織安田地域づくり協議会」を設立、平成２９年５月１８日に自治組織として正式に益田市の認定を受けました。そして、平成３０年５月１日付けで一般社団法人化し、平成３０年５月２４日に安田地域づくり協議会の財産の寄付を受け一般社団法人安田地域づくり協議会として再出発しました。

・令和４年６月８日一般社団法人安田地域づくり協議会総会を開催しました。令和３年度（第四期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の実績及び決算報告、監査報告、次に理事及び監事の全員が本社員総会終結と同時に任期満了退任します。これを改選する必要がある旨を議場に諮ったところ、新たに理事２名が追加選任されました。次に令和４年度（第五期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の事業計画案及び予算案について協議し承認可決しました。次に令和４年度から令和８年度における「まちづくり活動５ヵ年計画」案について詳細に説明したところ、全会一致で承認可決しました。

・今年度の取り組みは、当初、「やすだ村ええもん市」「史跡遺跡整備」「環境整備」「地域内買物支援」の非営利事業と、営利事業の「地域お助け隊」「パンカフェ営業委託」事業を予定しましたが、新型コロナウィルス蔓延防止のため「やすだ村ええもん市」は７月、１０月、１２月の３回共、中止しました。「パンカフェ営業委託」事業は、新たな事業者により令和４年２月２３日から営業を再開しています。その他の非営利事業は例年通り行っています。

『やすだ村ええもん市』事業

安田地域で生産された農作物、手作り品、加工品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。例年７月、１０月、１２月に開催していますが、新型コロナウィルスが依然として終息しないため、今年度も全て中止としました。その代わりに規模を縮小して野菜を中心とした土曜朝市を月に一回石見津田駅で１０時３０分から１２時まで開催しています。開催日はＲ４年４月２３日、５月２８日、６月２５日、７月コロナで中止、８月コロナで中止、９月２４日、１０月２２日、１１月２６日、１２月悪天候で中止、１月２８日、２月２５日、３月２５日の９回でした。

『地域お助け隊』事業

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈り・伐採作業を代行する「地域お助け隊」を結成して８年目となり知名度も上がり安定して需要があります。地域住民が安心して暮らせる環境づくりと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業従事者は男性１７名、女性５名、令和４年４月から令和４年１２月までの受注件数は１２６件、うち草刈伐採作業が８５件、庭木剪定作業が２５件、墓掃除が５件、その他１１件です。

『史跡・遺跡整備』事業

旧山陰道、丸山公園の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み保存してきた先駆者たちの業績を周知する事で、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。安田地区に残る旧山陰道と丸山公園の草刈を年２回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園の４地区で作業しました。

第一回目　令和４年６月２６日（日）ＡＭ７：００～９：００　参加者：３５名

第二回目　令和４年１０月１６日（日）ＡＭ７：００～９：００　参加者：３６名

『地域環境整備』事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を守ります。

『パンカフェ運営』事業

石見津田駅のパンカフェは先代のパン屋さんが廃業の後、新たな事業者により令和４年２月２３日（水）から「駅パンくるくる」として営業を再開しています。営業品目は、毎日食べたい「シンプル食パン１斤」と幸せ気分の「ご褒美食パン２斤」、６種

のロールパン（プレーン、チーズ、コーン、チョコ、レーズン、ウィンナー）に至福のあんパン、焼きカレーパン、つぶつぶ栗あんパンを提供しています。取扱品目が徐々に増えてきて、皆様に喜んでいただいています。

この「駅パンくるくる」は、石見津田駅舎を改築した店舗と設備一式を「一般社団法人安田地域づくり協議会」が益田市から借り受け、パンカフェ運営を個人の事業者に委託しているものです。

『地域内買物支援』事業

移動手段を持たない高齢者などの買物困難者のために、梅寿会とひれふり苑の介護施設の車で職員さんが、地域のボランティアスタッフ数名と一緒に毎月第二、第四水曜日に地区内のスーパーでの買物をサポートして下さっています。介護施設の車がない時は協議会が用意した車で実施しています。地域の皆さんからは感謝の言葉を戴いています。現在の希望者は津田地区、井の迫地区の方だけですが、高齢化が進み希望者が増えてくると思われます。

② 活動の成果及び効果

各事業の取組について、「やすだ村ええもん市」事業は、新型コロナウィルスの終息が見られず蔓延防止のため、令和元年１２月を最後に令和２年、令和３年と過去２年間中止してきました。令和４年も７月、１０月、１２月の年三回共開催を中止しました。それに代わるものとして４月２３日（土）から７月、８月、１２月を除いて毎月第四土曜日１０時３０分から１２時まで石見津田駅で小規模な野菜市を開催してきました。地域住民の皆様は開催を心待ちにしておられ毎回喜んで頂いています。「地域お助け隊」事業は、受注件数、収入金額共に前年度を上回る水準で推移しています。継続的に依頼される方が増えており、信頼して頂いていることが実感できます。また、

作業に従事してくださるメンバーにとってもアルバイト収入となり、生き甲斐づくりにも貢献しています。今後も草刈、伐採作業等の依頼は高齢化と共に増加していくものと思われます。「史跡遺跡整備」事業は年二回６月と１０月旧山陰道、丸山公園の草刈作業を地区の皆さんに参加して頂いて行っており、当地区の恒例行事となっています。「環境整備」事業は遠田川、嶽川の草刈と海洋漂着物の回収を行っています。最近は海水面の上昇の為か河川の水位も上がり河川内の草刈作業の必要がなくなってきています。「パンカフェ運営」事業は平成３０年４月１日開業以来５年目となりました。「パンカフェはあと」さん廃業後２カ月休業しましたが、その後は横浜からＩターンされた方が「駅パンくるくる」として新しいメニューで、引き続きパンカフェを営業されています。食パンを中心に各種ロールパン、あんパン、カレーパン、栗あんパンは地域の皆さんから美味しいと喜ばれ支持されています。
「地域内買物支援」事業は毎月第二、第四水曜日の二回の実施ですが、移動手段を持たない高齢者などの外出の機会づくりと皆さんと語り合える場となっています。
　また、公民館事業とタイアップして１１月２６日（土）から１月６日（金）間の安田公民館でのイルミネーション点灯イベントにも準備段階から参加協力しました。

4.　残された課題と今後の提案

　後継者の育成は依然として重要な課題です。平成２９年４月に任意団体としての地域自治組織安田地域づくり協議会を立ち上げて五年、平成３０年５月に一般社団法人安田地域づくり協議会を設立して五年経過しようとしています。スタッフはそれぞれ歳取っていきますので、いつまでこの状態を続けていけるのか心配です。「地域お助け隊」の作業自体は、可能な限りエンジンから電動へと道具類も新しく揃えてきており充実してきたので、効率的に速くこなせる様になってきています。スタッフは６０歳代以上が多いので若い人の加入が望まれます。「パンカフェ」の営業は新しいスタッフに代わり令和４年２月より営業を再開しています。以前より更に魅力的で充実した商品展開で、地域の皆さんに喜んで戴ける店づくりを目指します。地元の名物パン屋さんとなるように支援していきます。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

　地域魅力化応援隊員として地域自治組織の支援をして八年が経過しようとしています。地域自治組織の収益事業は「地域お助け隊」事業と「パンカフェ運営」事業があります。「地域お助け隊」事業では、作業従事者の高齢化や熱中症対策もあり夏場の作業は原則的に半日とするよう心がけています。皆さんの日ごろからの心がけのお陰で故障者もなく、事故も無く一年を過ごすことが出来ました。メンバーが足りない時には作業を手伝います。「パンカフェ運営」事業では、パンのメニューチラシ、注文票、ラベルシールなどの印刷物作成、毎日の売り上げ状況記録、注文商品の配達など支援をしています。地域の皆さんがより安心して暮らしていけるよう、もう一年間地域の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

鎌手地区

地域魅力化応援隊員　氏名　佐々木　浩臣

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

鎌手地区

2.　配置年月

令和４年７月から

3.　活動の概要

①活動の内容

・役員会の実施
・関係人口研修会への参加
・益田地域づくり勉強会 2022 への参加
・各部会会合への参加
・かまて地域づくり協議会だより No.12～14 の発行
・思いやり部会
○「お助け隊」、草刈り事業及び唐音水仙公園駐車場誘導の継続実施
　保育所、公民館の草刈りボランティアの実施
○「移動困難者の支援を考える会」、買物支援バスの運用、午前便の試験運用
・ひとづくり部会
○「益田市民吹奏楽団演奏会」を鎌手小学校体育館で実施
○中学生主体の「灯陽フェス」の実施
○「灯陽フェス」に向け U-15 カマテミーティングを実施
・魅力づくり部会
○「coffee work shop」の継続実施
a. かまカフェとして鎌手の６地区（土田、大浜、金山、西平原、木部、宇治）で実施
b. 北仙道きんさい市、二条ふれあい祭りでのコーヒー販売を実施
c. 小野地区交流会にてかまカフェのコラボを実施
d. 「灯陽フェス」にコーヒー出店を実施
e. ユタラボ主催「豊かな暮らしについて考える２日～ライフキャリア体験」に協賛し、ハンドドリップ Coffee 体験ｉｎ大谷を実施
○まちづくり特別補助事業の継続
a. SUP 体験を土田・大谷で地域の子供たちや地区外の人に６月末から９月中旬まで実施
b. 釣り体験の実施
c. SUP 体験を実施するうえでの安全確保のため水上安全講習会に参加
○鎌手魅力マップの作成継続

②活動の成果及び効果

≪思いやり部会≫

『お助け隊』の活動も 3 年目を迎えほぼ軌道に乗り、地域の方々に認知されてきた結果、年間 100 件を超える作業の依頼があった。依頼内容も草刈り、立木の伐採、墓掃除、水仙の球根堀など多様化している。リピーターの方も増え今後も安定して継続可能な事業として活動できると考えている。

『移動困難者の支援を考える会』では昨年度試験運用を始めた買い物支援バスの正式運用が始まりコロナの感染状況をみながら、月 2 回の運行を実施してきた。台風で一度運休したが利用されている方からは「とても助かっている」、「買物は楽しい」などの意見があり今後も継続して行く必要がある事業と考えている。

〈お助け隊墓掃除の様子〉

〈移動支援バス乗車前の消毒の様子〉

≪ひとづくり部会≫

今年度は部長の強い思いで「益田市民吹奏楽団」の演奏会を実施した。参加した地区の方からは「とても楽しかった」、「生の演奏は迫力があった」などの声が聞かれ概ね好評だったと考えている。

東陽中学校の 3 年生主体で実施した「灯陽フェス」は 100 人を超える来場者があり盛況であった、元々夏に開催する予定の事業だったがコロナ感染の状況をふまえ延期して、冬にようやく開催の運びとなった。生徒たちが絶対開催するという気持ちで準備をしてきたことがそれぞれの成長につながると考えている。

〈益田市民吹奏楽団演奏会の様子〉

〈灯陽フェスでのゲームの様子〉

≪魅力づくり部会≫

昨年度は他の地域への情報発信を進めましたが、今年度は地域の方に部会の活動を知ってもらう事を軸に活動した。「かまカフェ」と銘打って鎌手地区の6地区を回りコーヒーと会話の場を提供し、地域の方との交流を深めることが出来た。

また今年度、小野地区と2回の意見交換会やかまカフェのコラボを実施した。他にも北仙道や二条などの祭りにも出店し他の地区との交流も進めている。

SUP体験においても、地域の子ども達に対象を広げ鎌手の自然の豊かさを体験してもらい鎌手の良いところを実感できたと考えている。

〈かまカフェ in 木部の様子〉

〈SUP体験土田・後川子供会の様子〉

4. 残された課題と今後の提案

かまて地域づくり協議会も設立して3年目を迎え、コロナとの共存を図りながら、各部会の活動を行ってきた1年だったと思う。

残された課題として、思いやり部会としてはお助け隊の依頼件数の増加により対応できる部員が限定される事で負担が大きくなることが懸念される。また高齢の方の夏場の熱中症のリスクが危惧され今後作業のやり方などの工夫が必要と感じている。移動支援バスも来年度から2便の本格運用が始まりサポートスタッフの増員が必要と考える。

鳥獣対策は活動として進展がなく、今後部会としての方向性を再確認する必要があると考える。

ひとづくり部会は部員数も少ない中で色々な企画を実施してきたが、継続するための年間計画を早めに決める事が必要と考える。

魅力づくり部会は今年度も積極的に活動して地区外の方にも認知度が高くそれゆえコーヒーの出店やSUP体験など依頼に対応できない事も多々あった。あくまでも協議会の活動ということで、無理をせずメンバーの出来る範囲での活動を継続していただきたい。

各部会それぞれの活動目標を概ね達成できたと1年であったと思う、その中で3部会が協力をした「灯陽フェス」のように今後も協力できる企画を計画していただければより良い会活動になっていくと考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年7月から応援隊員として赴任しましたが、すでに令和4年度の活動が動いている中での参加のため、当初は業務をこなすだけでいっぱいでした。そんな中公民館長、主事、協議会会長、各部会長の皆さんから色々とアドバイスをいただき何とか務める事が出来ました。先任の方々が作ってくれた基盤がしっかりしていたことも大きかったと思います。

かまて地域づくり協議会としては活動の幅が広がった1年だったと思います。次年度は役員改選の年となり、新任される方もいると思いますが、事務局として出来る限りのお手伝いをして各部会の活動を盛り上げていきたいです。

種地区

地域魅力化応援隊員　氏名　有田　学

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

益田市種地区

2.　配置年月

令和 3 年 4 月 12 日より配置

3.　活動の概要

①活動の内容

地域自治組織「種むらづくり推進協議会」

高齢者・子ども支援部会

4 月より二年目に入る「通所型サービス B 事業」（住民による支援）を開始
同じく、「訪問型サービス D 事業」も二年目に入り開始
毎月毎週水曜日　高齢者サロンを開催（開催多数なのでメニューは省略）

5 月　第一回役員会と支援部会会議
7 月　雪舟の郷記念館遠足
10 月　アクアス遠足
2 月　海陽王国遠足
2 月　4 部会合同役員会

災害対策部会

6 月　第一回役員会「梅雨時期における防災への徹底」
8 月　第二回役員会「台風時期における防災への徹底」
12 月　第三回役員会「大雪時期における防災への徹底」

定住対策部会

5 月　第一回役員会
10 月　第二回役員会
2 月　第三回役員会・4 部会合同役員会

農業振興部会

5 月　第一回役員会
8 月　第二回役員会
12 月　部会長・応援隊員協議
2 月　第三回役員会・4 部会合同役員会

役員会

5 月　第一回役員会
9 月　第二回役員会
12 月　第三回役員会
2 月　第四回役員会

総会

6 月　烏帽子山アジサイ園の草刈り後に屋外でタープを張り、アウトドア感を出し、「青空総会」を開催（コロナウイルス対策にもなった）

その他

明誠高校キャリアサポート（年間 2 回受入れ）

前期（3 年生）7 回開催

5 月 11 日　初顔合わせ（スケジュールの打合せ）
5 月 18 日　地域を知ることから、地域をウォーキング
6 月 8 日　地域の問題点を自分なりに解決させ、提案
6 月 15 日　烏帽子山登山・紫陽花園ウォーキング
6 月 29 日　地域の方々とペタンクでの交流
7 月 6 日　中止（新型コロナウイルスにより）
7 月 13 日　松永牛や種地区の野菜などを使い BBQ と杵つき餅（直会）

後期（2 年生）5 回開催

10 月 19 日　初顔合わせ、地域の問題点を調査、（スケジュールの打合せ）
10 月 26 日　地域の問題点を自分なりに解決させ、提案
11 月 9 日　地域の方々とフラワーアレンジをして交流
11 月 16 日　全粒粉を使いクッキーなどを作り、地域の方々へ御礼
11 月 22 日　松永牛や種地区の野菜などを使い BBQ と杵つき餅（直会）

②活動の成果及び効果

地域自治組織「種むらづくり推進協議会」

【高齢者・子ども支援部会】

生活輸送事業として 2 年目に入った。益田市介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービス D 実施団体として活動し、通所型サービス B 事業も開始され、益田市東部・中部地域包括支援センターにケアプランを作成してもらい、口コミから 65 歳以上の利用者さんも徐々に増え、今は昨年に比べても大幅に参加者が増えた。しかしながら新型コロナウイルス感染症もまだまだ猛威を振るっている中で、参加を恐れる方も多いが、平均でも 15 名の方々がサロン等へ来てくれている。講師などを呼び、子どもや高齢者らが楽しんでもらえるメニューを作り、この活動が「ひきこもり」の予防にでも少しでもなれたらと考えている。感染症対策に十分気を付けながら、他機関と連携をして、海洋館アクアスへバス遠足をしたり、地元の記念館などへ見学に行ったりと種地区だけに留まらず、外へも出かけている。それに今期から、誕生日ケーキを食べる企画も応援隊員で起案し実施している。特に独居の方などは涙を流し喜んでくれるし、同居の方にも喜んでもらえる。同居していても年寄り除外な家庭も少なくないからだ。そういったところから、現状把握し、包括支援員らと早めの対処をし、二次災害に結びつかないようにしている。かなり奥深い意義ある取り組みであると考えている。

【災害対策部会】

昨年度、兵庫県立大学の澤田先生を「しまね防災士会」（代表有田）の補助金で 2 回お招きできた。種地区を視察してくださり、種地区独自の防災マニュアル制作に入った。地域自治組織で社協の補助金に挑戦し、ドローンなども購入を考えている。空撮より幹線までの避難経路を作る画像を撮る為である。避難誘導が難しい箇所の種独自

のハザードマップを作成する。その為、有識者を入れて、強い物を作り上げていく。
【定住対策部会】
種地区に空き家が多く存在している。その問題に次年度着手する。空き家の問題で一番は「神棚」「仏壇」「お墓」いずれも「管理」が問題となっているのが、昨年度アンケートを取りデータベース化出来た。この問題に少し有識者（葬儀社、終活アドバイザー等々）を入れて所有者と勉強会を開催しようと考えている。そして、1/25 に定住対策部と農業振興部との合同で役員会を開き次年度に向けた取り組みを決める。これも空き家のリノベーション事業者を入れて本格的に動く。関係人口と交流人口を前面に出し、都市部から人を種地区へ呼び込み、先ずは「知ってもらう」動きからする。
【農業振興部会】
毎年末には、種だよりを種出身者などに送る際、まなびや工房の正月餅などの注文書を一緒に入れて送っている。その注文が毎年多い。これに伴い FAX の注文だけでなく SNS の導入も実施した。これにより飛躍的に注文数も増えた。
今後は、その正月餅が出来るまでの生産過程などにも携わってもらおうと考えていて、1/25 の役員会で協議する予定。関係人口・交流人口の補助金を使用し、種地区のアグリ種といわみ農援隊（代表有田）とが協力し合い、もち米作りを一緒にしてみるパッケージも作っていきたいと思っている。

4. 残された課題と今後の提案
まだまだ課題はある。そして解決にしても正解はない。そう僕は思っている。
地域の方々の満足を得るのはかなり難しいし、ゴールはない。そして年々人口は減り担い手は少なくなっていく。しかし地域は残り、地域活動も残る。人が居ないのに組織だけはあるという無理な構図だけ残ることが予想される。
僕は常々応援隊員会議でも言っている「連携」「協働」。言葉だけじゃダメであり、格好だけじゃダメ。行動でいつかはしないと衰退するばかりだ。
いつかのタイミングかで、「合併」も視野に入れていかないと存続は難しい。
僕は「神楽では飯は食えん」と 30 代の舞っていた頃から思っていたが、現に今そうなってきた。これだけ社中があり、保存会があり、各社中らで挙って独自のスタイルを継承しているが、これはこれから衰退する一方だと残念ですが考えています。どこかのタイミングで連携を図り、少しずつ数を減らし社中の人数を増やしていかないと共倒れになるだろう。種もまだ「運動会をする！」と意気込んでいるが、参加する人も居ない様な運動会をしても何が楽しいのだろう？そうではなく、次に変わるスタイルのスポーツ大会でも文化祭でもいいのではないだろうか？次年度から具体的にメスを入れていく。空き家問題も、人口減ってきているのだから、住んでいた箱ものは空くのは当たり前。その空き家を今後どうするのか？を次年度新たに会社を立ち上げ、種地区からモデルを作っていく構想でいます。

今後の提案は、【名ばかりではない、「連携」と「協働」】の構築だと考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って
令和 4 年度の応援応援隊員を終えたが、一昨年末に心筋梗塞になり生死をさまよった。幸いにも命拾いし 1 月と 2 月中旬までは静養させて頂き年度末忙しい時期には

復帰し、昨年度を終え今年度に入らせて頂きました。連携のまちづくり推進課の田原課長をはじめとする職員の皆さまのご協力などで今年度勤務時間の調整など親身になっていただき、そして種公民館職員さんらにも迷惑をかけてしまいましたが、職員同士の連携でこの年度働くことが出来た事をまず最初にこの場をおかりし感謝申し上げます。ありがとうございました。各地区の応援隊員さまにも深く感謝しております。ありがとうございました。
その様な中での今年度始まってから、勤務時間をフルでしてみると体力がなく心臓への負担がかなり大きいのに驚き、半日勤務をメインでしながら徐々にフル勤務時間へとスイッチしていきました。この一年、行事もほぼ新型コロナウイルス感染症の影響により中止が相次ぎましたが、with コロナの考え方を役員会などで話し合い机上論ではあるが、来年度行事再開に向けての準備はしておこうと投げかけ、役員レベルでは周知してきました。この一年身体を使う事にはセーブさせてもらいましたが、デスクワークの方で発揮させてもらい、会議系を多く取り入れ話し合いの場を作りました。来年度、フィールド活動に向けて準備させてもらいました。
今年度で 2 年目が終わります。1 年目はとにかく地域と人を覚えるのに一生懸命でこれはずっとすることではあろうが、とにかく地域と人を覚えるのに一生懸命で、2 年目はやっと地域の課題や地域の事がわかってきたのでどうすれば良いか？などの問題と解決を机上論で作れてきました。地域の方々からも「有田君、ありた君」「有田さんの顔見にサロン来るよ」などの会話が生まれてきました。やっと次年度から考えたプロジェクトを実践していける時期に入ってきました。もう少しだけココでカラーを出して、先進地種となる様に頑張っていきたいと思います。しかしながら身体が資本です。身体を壊したら何も出来ない。身体を労わりながらもう少しだけ種むらづくり推進協議会を支えたいと思う。

北仙道地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岡本　堂里

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

北仙道地区

2.　配置年月

令和４年６月から

3.　活動の概要

①　活動の内容

・各部の会議や役員会への参加、会議録の作成。他参加した会議の会議録作成
・各部会で必要に応じてのチラシ作りや各家庭へのチラシ配布準備
・各部会のイベントの準備やイベントへの参加、サポート
・交付金、特別補助金の書類作成、準備、管理など
・Facebook、Instagram への投稿

②　活動の成果及び効果

（１）つながり部会

・kita no-ma　― 新・北仙道小学校 ―

（下表）kita no-ma の開催内容、参加人数

開催日	内　　容	大人	子ども	合計
4/16	筍ウォーキング	28 人	16 人	44 人
8/6	モデルロケットづくり	17 人	13 人	30 人
10/29～30	北仙道キャンプ（１泊）	23 人	21 人	44 人
12/17	クリスマス会	10 人	4 人	14 人
12/27	しめ縄づくり	20 人	8 人	28 人
1/21	どんど焼き	22 人	8 人	30 人

筍ウォーキング

モデルロケットづくり

北仙道キャンプ（１泊）

クリスマス会

新型コロナ３年目の影響が残る中いろいろなイベントも少しづつ戻ってきつつあります。しかし、参加者は過去を見ると少なくなっていたため、各イベントのチラシを子ども達の家庭へ一軒一軒配って回りました。結果的には１泊の北仙道キャンプの参加者はとても多く、またユタラボから大学生の参加もあり有意義な２日間が過ごせたのではないかと思います。今後も少しづつ地域の子供や大人のつながりが更に進んでいくことを願っています。

（２）課題解決部会

北仙活力隊による草刈り活動での収益から事務手数料として頂いたお金の処理を行ったり、依頼者の方がお金を持ってきてくださった際、領収書を準備したりしました。活動自体には参加しませんでしたが、依頼者の喜ぶ顔をみて満足感はありました。また、依頼される方も固定化して、安定した活動になっていると感じます。

（３）いきいき部会

よめな会として「ナスの辛子漬け」、「干し椎茸」、「炊き込みご飯」、「梅干し」などを作って市内のスーパーやきんさい市などで販売してほぼ完売となります。また、

よめな会のキャラクターも大学生に作成してもらった「乙子挟ヨメナ」（おとごさよめな）のパッケージも好評です。今まで、ナスの辛子漬けや梅干しなど、年輩の方が買ってくださっていましたが、かわいいキャラクターのおかげで子ども達から、若い層の方が商品を購入して頂くことが多く、売り上げは順調そうです。特にナスの辛子漬けは大好評です。

◇きんさい市

きんさい市は本年度で 4 回目 5 回目を実施しました。

今年度はまだまだコロナの影響もあり大々的には開催できませんでしたが、年度で計 2 回開催することが出来、そしてまた毎回 120 人以上の来場者を迎えることが出来たことは大きな収穫だと思います。地区外の方とも協力し合ってきんさい市を行うことが出来、たくさんの協力者がいることに心強く、つながりが深まって行くことが出来たと感じています。

11 月の開催では「狭姫伝説」の映像化とナレーションで来場者を引き付けることが出来、今後は更にステップアップして行きたいと思います。

また、地区内で生鮮野菜を出品して頂き地域のＰＲも出来たのではないかと思います。是非ともこの催しは継続できるよう期待します。

ご協力を頂いた多くの方々にお礼申し上げたいと思います。

（４）定住促進部会

◇地域情報の発信

昨年度に引き続き、毎月の地域自治組織だよりの発行や Facebook での情報発信を部会の方と一緒に行いました。北仙道の PR として一躍を担って貰っています。

今後は、他の方法での広報も考えていけたらと思います。

◇竹灯籠

10 月 29 日に竹灯篭ワークショップをつながり部会と一緒にコラボで北仙道キャンプに併せ実施しました。地域の方がたくさん参加してくださり、竹灯籠を初めて見る人、初めてやる人も多く良いふれあいの場となり、夜の点灯の時は皆

さんは、本当に幻想的な光に感動したように思いました。

4. 残された課題と今後の提案

令和 4 年度も最終場面を迎える頃となります。

この年度を振り返るとコロナ渦の中で、住民自体もだんだんその状態に慣れてきて活動も徐々に活発化してきたような気がします。

しかし、「つながり」「課題解決」「いきいき」「定住促進」と 4 つの部会がある中、どの部会を見ても構成メンバーの高齢化、そして固定化となっており新旧交代が図られないのが現状です。

継続することは非常に大事なことですがイベント内容の繰り返しが続いている気がします。新たなメンバーを迎え新風を吹き込むことも必要であると感じます。

また、皆さん忙しい中で一生懸命に対応していますが、どうしてもマイワークがある事で調整が難しい事もあると思います。もっともっと地域の参加者を増やしてイベントや活動の意義を理解して貰い、意見を出してもらえることが必要でもあると思います。

少子高齢化が進む中で老若男女問わず地域を盛り上げていくには何が必要なのか、どうしたらコミュニケーションの場にもっと参加者を増やすことが出来るのかが今後の課題であると思っています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度、地域魅力化応援隊員として 10 か月を経験させてもらいました。

人生の中で地域のコミュニケーション業務は初めての経験で不安の中でスタートした状態です。

まずは地域の人達を覚え、溶け込んでいくことが肝要だとの思いから、案内文の配布や困りごとなどがあれば極力、直接出向いて顔を見て話す事から始めることだと思い実践したところです。

不慣れな業務の中、公民館の職員、地域の方々の見守りで、ある程度内容が見えてきて、そして対応する中で本当に皆さんのご厚意に感謝しています。

私の、住所の地域とはかけ離れたカラー持った地域性であり驚きもありました、離職しても何らかの形でこの地域に貢献できれば思っています。

ただ、一人で熟さなくてはならない部分が色々とあり多忙の中、方向性を見つけるのに苦慮することも多々あるのが現状でした。

豊川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岡﨑　友臣

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   豊川公民館
2. 配置年月
   平成２６年４月１日から
3. 活動の概要

①活動の内容

Ⅰ．地域自治組織に関わる業務

・地域自治組織の支援（各会議・定期総会の開催、運営の支援・調整等）
・まちづくり活動の支援（公民館との協働、関係諸団体との連絡・調整等）
・第３期まちづくりプランの構想（2023～）　・視察対応等
・益田市まちづくり活動交付金（申請、年度末の報告、経理等の提携業務等）
・益田市まちづくり特別補助金（審査会、　〃　）
・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援（会議、運営の支援・調整、経理等）

Ⅱ．まちづくり活動計画

・令和４年度の事業計画に沿った活動を中心に豊川らしい「ひとづくり・地域づくり」を目ざした活動を実施する。
・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
　☆とよかわ寺子屋の運営　☆中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）
　☆地区内外との交流　☆保小中の活動の支援　☆地域内外への情報発信
　☆「とよかわの家」の管理運営　☆「とよかワゴン」の管理運営
　☆歴史的遺産の保存　☆お茶プロジェクトの実施
　☆「マスダひとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営
・まちづくり部会（自治会との連携）
　☆空き家調査の継続（危険空き家等の状況把握と空き家バンクへの推進）
　☆安心して暮らせるまちづくり（自主防災対策・鳥獣対策）
　☆情報の共有・活動の活性化（地域自治組織、活動内容の周知）

②活動の成果及び効果

Ⅰ．地域自治組織に関わる業務

・とよかわの未来をつくる会役員会の開催
：第１回　令和４年　４月１９日（水）１９：００～
　豊川公民館にて役員１０名（リモート１名）他７名　計１７名出席
☆役員改選及び組織体制について
☆定期総会の説明（次第、事業報告、決算報告概要、シナリオ等）
　３年連続で定例総会は開催せず、書面表決にて対応する。
：第２回　令和４年　６月２３日（木）１９：００～
　豊川公民館にて役員１１名 他１０名 計２１名にて開催
☆ 第５回 とよかわの未来をつくる会 定期総会（書面表決での実施）
：定例総会「書面表決」の集計結果報告

各戸（約３０５戸）へ書面表決書を配布。１６６戸より回答、地区民の理解と協力により定例総会の議案は可決。令和３年５月２２日付けをもって承認。

☆地域づくり団体交流について説明

☆豊川地区拠点機能集約化ビジョンについて説明

・とよかわの未来をつくる会 会議開催状況

：今年度も新型コロナウィルスの影響もあり役員会６回、ひとづくり部会４回、まちづくり部会４回を開催予定。

第２期プランに掲げた「楽しく」「子どもも大人も」「自分たちで」をキーワードに住みよい豊川に繋がる活動を展開する。

・益田市まちづくり活動交付金（６５０千円）

：運営費及び事業費等、各部会の活動支援に充当。

・益田市まちづくり活動特別補助金（８６７千円）

：みんなでつくるシェアガーデンプロジェクトにより食品乾燥機等備品購入

・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援

：ひとづくり部会と連携し４回の会議を開催。

☆事業活動（とよかわっしょい‼・マスダひとまちカレッジとよかわキャンパス・PTCA 親子体験プログラム他）の実施及び支援。

とよかわの未来をつくる会役員会

フルーツガーデンをつくろう（苗植え）

Ⅱ．まちづくり活動計画

・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）

☆とよかわ寺子屋の運営

英語教室をはじめとし、夏休みには「すたでぃスペースとよかわ」にて科学教室、親子での遠足など様々な教室を開催、秋休みにはお茶プロジェクトの手伝い、冬休みには書初め教室等を開催し子ども達の主体的な学びを深める活動を展開。

☆中高生の活動の支援（とよかわっしょい‼）

昨年度、島根県教育委員会より優良少年団体表彰受賞により他地区からの視察や取材も多く７月の TSK「吉田君のしまねゼミ」の収録では小学生との交流やフルーツガーデン倉庫のリフォームの活動が紹介された。

☆地区内外との交流

地区内の世代間交流は小学校・公民館の各イベントを通して図れた。

地区外の交流についてコロナ禍ではあったがライフキャリヤ教育の為に「とよかわの家」を介した大学生との交流や県内外からの視察を通して実施できた。

☆「マスダひとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営

新規講座として「フルーツガーデンをつくろう！」を実施。大人から子どもまで、果樹園づくりを通し「農」の楽しみ方が学べた。益田市の暮らし体験に来

た県外の方も活動に参加するなど関係人口にも繋がった。

☆保小中の活動の支援

益田東中学校の職場体験・公民館体験、ローカルプロジェクトや保小によるサツマイモ植え体験等を実施。「ふるさと教育」の活動を支援。

☆「とよかわの家」管理運営

お試し住宅として３件、地域実習関連として３件、地域イベントの関連が７件利用あり。本来の目的である関係人口の促進は図れたように思う。日本海 TV 番組「冠ルーヤ」でも紹介され今後の利用に期待している。

☆「とよかワゴンの運営管理」

百歳体操等高齢者介護予防や生活支援に繋がる事業、小学校、保育園の交流活動やシニアカフェ等の各イベントでの活用が図れた

☆お茶プロジェクトの実施

地区の有志による茶畑の整備、茶摘み、袋詰め等小中学生とのお茶づくりも実施。今後は文化祭やイベントなどでの販売も予定。楽しみながら活動している。

☆歴史的遺産の保存

地区の方々の協力を得ながら遺跡見学路等の階段設置。倒木処理、除草作業により環境整備や維持管理を実施。

名所である「岩栃しだれ桜」の保存会が後継者不足により解散の危惧。

☆地域内外への情報発信

ＨＰやフェイスブック等 QR コードの利用により豊川地区の魅力を伝える為の情報発信を行う。今年度よりインスタグラムを開始。

・ひとづくり部会

☆空き家調査の継続

益高生による探求学習「家と生きる」勉強会を実施。高校生から見た空き家対策を発表。地域の課題解決に取組む学生の姿を地域の大人に感じてもらえる良い機会になった。

☆安心して暮らせる地域づくりの推進（自主防災対策・鳥獣対策）

クマ対策の勉強会を実施。柿の実の早めの摘み取りや適正なゴミの処分により被害防止に繋がることを学ぶ。小学生が放置柿を収穫。柿の活用方法などの調査を行うなど今後の取組につなげていく事となる。

☆情報の共有・活動の活性化（地域自治組織、活動内容の周知）

定例の会議及び「本会のだより（隔月発行）」、「チラシ」等の作成・配布により本会の活動内容を紹介。

フルーツガーデン倉庫リフォーム

日本海 TV「冠ルーヤ」ロケ

「家といきる」勉強会

4. 残された課題と今後の提案

Ⅰ．地域自治組織に関わる業務

今年度は地域自治組織設立６年目となり第２期まちづくり活動計画（３ヶ年）の後期として、これまで第１期のまちづくり活動計画３年間の取組を継続し、初年度の取組を発展させるため事業計画と合わせて、より活動しやすい組織体制へと整理、まちづくりプランに掲げた地域の将来像「住みよい豊川・住み続けたい豊川」を具現化して行く為の取組を進めている。

地域自治組織設立７年目となる来年度は、「第３期まちづくり活動計画」の前期として、現状通り各事業の実施を視野に地域課題の整理・解決、情報の共有・周知等、地域運営の仕組みづくりの充実を図り、地域のために住民が心を一つにして、夢と希望を持ち活力ある「とよかわのめざす将来像」に向けた新たな一歩を踏み出すための１年としたい。

Ⅱ．まちづくり活動計画

例年、地域の将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」及び、課題解決に向けて実施計画を定めた「まちづくり活動計画」を柱としてより良い形を模索しながら取組みを進めてきた。今後も将来にわたり地域住民が安心して住み続けられる環境整備の充実を図り、魅力あるまちづくりを目ざし、これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく「まちづくり」の構築を図らなければならいと考えている。

・ひとづくり部会

地域内外や世代間の交流の機会が少なく、地域の未来を担う次世代の人材が不足している。新たにＰＴＡをＰＴＣＡ（Ｃはコミュニティ：地域）とすることで子どもに関わる活動と連携しながら地域の交流を図り、お試し居住施設「とよかわの家」を通して移住促進はもとより関係人口への取組み、地域内外の交流やひとづくりの推進が必要と考える。

・まちづくり部会

地域住民への会の活動内容の周知やより多くの方々に参画してもらう仕組みづくりを作るため自治会長を中心に安心して暮らせる地域づくりに向けた取組を重視し、より一層の地域の活性化・魅力の創出に向け、空き家の活用、特定家屋の把握、鳥獣被害防止各自治会での自主防災対策の支援を図りたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への参加・支援に取組む。

「地域づくり活動」では、公民館・小中高・地域イベントのサポートにより地域の現状把握や住民との交流を図る。独自のパソコン教室「パソコンカフェ（月２回）」を開催。

今後も「まちづくり活動計画」の各事業の進行、実施がスムーズに運ぶように各部会と連携し事務局としてサポートして行きたい。

早いもので、豊川地区に配属されて９年が経つ。地域自治組織も地域住民や公民館の支援、協力により順調に推移している。他地区では応援隊員制から地域マネージャー制への移行も進んでいるが、今後のあり方について不安もあるため、情報収集を図りたい。これからも地域の為に協力できればと考えている。

来年度は「豊川複合施設」関連や「地域づくり団体全国研修交流会島根大会」も控えており目まぐるしい一年になりそう。

真砂地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岸本　真樹

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

真砂地区

2.　配置年月

平成 27 年 8 月

3.　活動の概要

①　活動の内容

Ⅰ　地域自治組織に関わる業務

・地域自治組織の支援（役員会・定期総会の開催、本部の会計、各部会・自主防災団体運営真砂の支援、各種団体との調整等）

・ひら山のふもとカフェ tele-glue の施設管理、イベントの企画運営支援

・学び合い部会副部会長としての部会活動

・情報発信（ときめき通信の発行、SNS 投稿等）

・地域自治組織座談会（発起人会）に関わる業務

Ⅱ　真砂複合施設管理運営準備委員会

・事務局として会議開催の支援

・情報発信（複合施設ニュースレターの発行、SNS 投稿等）

Ⅲ　イベント実行委員会

・委員として、イベント開催についての協議、開催準備等

・情報発信（子どもたちの地区内告知放送支援、SNS 投稿等）

Ⅳ　視察対応、各種研修会への参加

②　活動の成果及び効果

Ⅰ　地域自治組織に関わる業務

・役員会開催　　4/11、5/18、6/22、7/15、12/20、2/27（予定）

・令和 4 年度定期総会開催　　5 月 27 日（金）出席者：23 名

・まちづくり特別補助金事業プレゼンテーション　6 月 2 日→採択

令和 3 年度交付金事業を経て、自主防災団体×自治会コラボ事業として申請。自治会の自治組織に対する見方を変える良いきっかけとなった。

・親子で川遊び（きずな部会）　7 月 30 日（土）参加者：地区内親子 24 名

地区中心部から遠く、住民でも訪れる機会が少なく、且つ子どものいない限界集落でのイベントにつき、子どもたちの声が聞こえるだけでも賑わいづくりとなり、また地元の方の活躍の場創出の機会ともなった。

・地域自治組織座談会発起人会　6/7，8/29

感染症の影響で全体会の開催は見送り、アンケートを実施。各自治組織の不安や疑問点についてまとめて市から回答を得ることができた。次年度は当地区が事務局となるので、20 地区全体にとってよい内容となるよう努めたい。

ときめきの里真砂役員会

tele-glue 施設管理

親子で川遊び（柿原地区）

Ⅱ 真砂複合施設管理運営準備委員会

・準備委員会会議　　5/10、6/21、10/5、12/1

・複合施設の使い方ワークショップ（小学生対象）

4 月 5 日（火）参加者：小学生 7 名、職員等 3 名

・複合施設の夢を語る会[職員対象]　4 月 20 日（水）参加者：11 名

・交通安全教室[翔陽高校総合学習×ユタラボ×益田警察署]（保育園児対象）

8 月 22 日（月）参加者：園児 7 名、職員 1 名

・複合施設見学会（施設入居者対象）　7 月 7 日（木）

・施設棟上げ見学会（一般向け）　7 月 9 日（土）参加者：24 名

・屋号ワークショップ[東中 6 カルプロジェクト]

10 月 19 日（水）参加者：東中 2 年生 24 名、教職員等 6 名

・小学校×公民館チームビルディングワークショップ

①11/28，②12/12、参加者：小学校 7 名、公民館 4 名

・引越し蕎麦ふるまい　12 月 26 日（月）参加者：32 名

・小学校 2 学級総合学習授業（地域自治組織について）　2 月 1 日（水）

・作野教授（島大）と意見交換会　　2 月 17 日（火）

複合施設の使い方 WS

施設棟上げ見学会

東中 6 カル P×屋号 WS

市担当課との協議

小学校×公民館 WS

市担当課との意見交換会

施設の建設現場に住民等が参画するワークショップを計画していたが、様々な理由により叶わず残念だった。しかしながら、真砂小学校・益田東中学校の授業の一環で話す機会をつくれたことで、地区内外問わず真砂や複合施設に興味を持ってくれる人が増え、今後の展開に期待が持てた。
また小学校と公民館の移転後は、教員と職員が同じ部屋で仕事をすることになるため、お互いの不安解消のため、外部コーディネーターに依頼して面談やチームビルディングワークショップ等を行ったことで引っ越し後の業務が円滑に回るようになった。

Ⅲ イベント実行委員会

・実行委員会会議　7/27、8/22、10/12、1/25
・真砂地区大運動会　10 月 1 日（土）
・真砂まるごとフェスタ　11 月 13 日（日）
・さくら蘇生作業　2 月 25 日（土）予定
・桜ライトアップ　3 月 26（日）～4 月 7 日（金）予定

イベント実行委員会会議

地区大運動会

さくら蘇生イベント

Ⅳ 視察・取材対応、各種研修会への参加

①視察・取材対応等

・日本農業新聞取材コーディネート　8 月 23 日（火）
・島根大学大学院生調査対応　11 月 29 日（火）
・秋田県能代市梅内集落　10 月 12 日（水）
・匹見上公民館、地域自治組織視察対応　12 月 6 日（火）

③ 研修会等参加

・自然栽培ゼミ（江津）　全５回（6/8、7/29、8/24、12/7、3/8）

複合施設敷地内に予定している農業公園の参考に、自然栽培の連続ゼミに参加した。有機肥料等も一切使わずに、自然と野菜の力だけで栽培できる手法を学んだので、今後、子どもたちや地域の方々と一緒に実験をしていきたいと考えている。

自然栽培ゼミ（座学）

自然栽培ゼミ（実技）

4. 残された課題と今後の提案

今年度は地域自治組織設立７年目、第三期の後期として、「持続可能な地域づくりを目指し、真砂で暮らす全ての住民が高齢になっても生涯現役で頑張ることが出来、元気で明るく笑顔の絶えないピンピンコロリの健康的な真砂を目指す」の目的に沿った活動を、複合施設（地域活性化交流館）建設後を意識しながら実施してきました。感染症や工事の進捗、その他様々な理由により計画通りに進まなかったことが多く色々と歯がゆい思いはしましたが、それでも都度「今できる最善」の動きはできたのではないかと思います。

しかしながら、年末に建物が完成し、年明け１月から小学校・公民館は業務を開始しましたが、まだ職員さん達も新しい環境に慣れるので精いっぱいですし、実際に動いてみないとわからないことだらけです。

また外構舗装工事の目途が立たず、未だ竣工式の予定も立たないような状況なので、なかなか地域の方に積極的に来ていただく計画は立てづらいのですが、この状況を逆手にとり、今まで関わりがなかった人、薄くなっていた人にもどんどん相談し、助けを求め、一人でも多くの方々に協力を仰ぎながら進めていくことが、結果、目指すところの「みんなが使いやすい、みんなの複合施設」を作り上げることに繋がるのではないかと思います。

この複合施設は、真砂地区の先人からの想いを引き継いで、地域自治組織が住民の総意をまとめた提案書を市に提出し建設が実現したものであり、この施設の活用が今後の真砂地区存続の鍵となるといえますが、最初から完成を求めない「未完成から、みんなで協力して完成を目指す」ことが、「真砂方式の持続可能な地域づくり」となるのではないかと考えます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

早いもので、この真砂地区に配属されて８年目となりました。地域の方の顔とお名前を必死で覚えるところから始まり、地域自治組織とは何ぞや？の状態で、一から勉強させていただきながら試行錯誤の連続だったと振り返ります。

地域の方からも多くのことを学ばせていただきました。お世話になっている方に恩返しをしたいと息巻いて、理想を描いては思い通りにいかず落ち込んだり、未だに未熟者だなと反省するばかりですが、最近思うのは、地域づくりに正解はなく、シンプルに地域の人に寄り添い、明るい未来を一緒に見続けることなのかなと考えたりします。

地域の方には、家族ともども大変お世話になりました。今後も、自分も地域も幸せになれる生き方、働き方をしたいと思っています。

西益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大畑　咲絵

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署
　西益田地区

2.　配置年月
　令和元年６月から

3.　活動の概要
　①活動の内容
　　西益田まちづくりの会　スローガン
　　“一人ひとりが輝く　いいまちにしますダ !!”
　　「西益田に住むわたしたち一人ひとりが、役割を持ち、輝き、
　　いいまちにしていきましょう。」

◆運営委員会
・「西益田まちづくりの会」の全体運営、重点項目の推進
・４検討委員会の活動の確認及び、統括、アドバイス等
・いろいろな地域団体や実行委員会との連携、役員での参画
・広報活動（イベント等を活用した宣伝、SNS での発信、たよりの発行など）
・まちづくり活動特別補助金の最終統括

◆地域振興検討委員会　～つながりのあるまちにしよう～
・地域イベントを通して、人の「つながり」と「親睦・連帯感」を培う。
・住みよい西益田にするために、自然、文化、場所など、何でも活用する。

項　　目	検 討・活 動 内 容
賑わいの創出・文化の継承	賑わいの創出について検討する （のぼり旗・イルミネーション）
拠点づくり・資源の活用	・住める空き家の情報収集、整理を続ける ・旧豊田小跡地の活用等の検討

◆次世代育成検討委員会　～ご縁を未来へつなげよう～
・各世代をつなぐ企画（取組）をして、豊かな文化や体験や人の思いを受け継ぐ。
・交流（ふれあい）で「つながり」を深める。（縦・横・団体組織間の関係）

項　　目	検 討・活 動 内 容
世代間交流・世代間リレー	世代間交流を促す提案
地域の輪づくり	世代間・人・団体交流の模索

◆地域福祉検討委員会　～声を掛け合って支え合おう『つろうて幸せに！』～

・地域の方々の不便の軽減のために、「困った」に応える取組をする。

・地域の「ふれあい」「笑い」をてこに、健康な心と体をつくる。

項　　目	検 討・活 動 内 容
くらしサポート	くらしサポートを推進するための調査・研究
心と体の健康	健康な心と体づくりについての情報提供と検討

◆地域安全検討委員会　～早め早めの行動で、あわてない安全なまちをつくろう～

・安全で安心して暮らせるよう、災害、事件、事故から生活を守る。

・鳥獣の被害を減らす。対策により生活を守る。

項　　目	検 討・活 動 内 容
安全・安心なまちづくり	防災の学習と地域の安全についての取組
鳥獣被害を減らそう	鳥獣の学習とそれに基づく取組

②活動の成果及び効果

◆運営委員会

☆「西益田まちづくりの会」の全体運営

・今年度は、全体会も含め計６回の会議を行い、地域自治組織設立４年目の活動の統括や、４検討委員会へのアドバイスなどを定期的に行った。

☆まちづくり活動特別補助金の申請　“「みずいろ公園」整備事業”

・横田町中市町内会にある「（通称）みずいろ公園」に休憩所（東屋）を設置した。利用者が減り、雑草が目立つようになっていた公園を、“人が集まりやすい公園にしよう”と、令和２年から大人と子どもで一緒に取組を始めた。これまでに、ベンチを作り、芝を植え、看板を設置してきたが、「日陰があれば、幼児親子から高齢者までが立ち寄れる、人の集まる公園になるのでは」という中学生の熱い提案で、新たに休憩所の設置を計画した。今後は、地域やまちづくりの会でイベント等を企画し、地域住民の憩いの場となるよう活用していく。

◆地域振興検討委員会

☆「空き家情報収集プリント」の作成・配布

・昨年度に引き続き、住める空き家に重点を置き検討を進めた。情報収集のためのプリントを作成し、地域からの情報提供を呼び掛けた。

☆手作りイルミネーションで地域活性化を図る

・今年度から地域振興検討委員会が主体となって取組み、例年とはひと味違うものとなった。設置場所は、横田町家下の市営住宅横の空地（旧豊田小跡地）を活用した。地元の中学生に参加を呼びかけ、地域の方々との交流を楽しみながら活動に取組んだ。

◆次世代育成検討委員会

☆「西益田　灯火祭」の開催

・“地域のために何かしたい”という中学生の思いで始まったこの取組は、今年で３回目の開催となった。６月から横田中学校の生徒の有志と協働で進めていた竹灯籠企画「西益田　灯火祭」を１１月に開催した。企画会議には中学生も参加し、大人と一緒になって企画を作り上げた。当日は、小学校や保育園、養護学校、福祉施設、地域の方々など、多くの方に作成協力をいただいた竹灯籠約 1500 本を展示した。特に、今年のメインでもある３D 竹灯籠は、火を灯すと立体的なハートの形が浮かび上がり、約 750 人の来場者に楽しんでいただいた。このイベントを通して、昨年よりも更に多くの人との「つながり」を創出することができた。

◆地域福祉検討委員会

☆移動手段などの情報提供を検討

・昨年度実施した“あなたの困りごとアンケート”の結果をもとに、「交通・移動」、「買い物」に焦点をあて、検討内容を模索した。その中で「送迎を含めた 100 歳体操サロン」の提案を検討し、プリントを作成し西益田地区の各自治会長へ提案した。また、移送アドバイザーとのヒアリングも行い、地域でできる支援の形をアドバイスいただいた。

◆地域安全検討委員会

☆防災学習会の開催

・外部から講師をお招きし、「自主防災組織の活動と集中豪雨や水害へのそなえ」についてお話しいただいた。今回の学習会では、「日頃からの備えと声掛けがとても大切だ」とアドバイスをいただき、「気にかけ合う地域づくり」が大切であるということを学んだ。

☆鳥獣被害対策学習会の開催と猪捕獲檻の設置

・西部農林水産振興センターから講師をお招きし、鳥獣の生態や基本的な対策についてお話しいただいた。鳥獣が実際に作物を獲る様子や、畑や水田に出没する様子などを動画で紹介され、普段あまり見ることのできない動物の姿に、地域の皆さんは熱心に見入っておられた。
また、昨年度補助金を活用して制作した猪捕獲檻１基を地区内に設置したところ、２頭の猪の捕獲に成功した。

4. 残された課題と今後の提案

・地域自治組織設立から４年がたち、「課題検討の話し合いの場」と「人の確保」は軌道に乗ってきている。今後は、「検討」の域を超え、「具体的な取組や活動」をどのように膨らませていくかが課題となっている。

〈課題に対する提案〉

①可能なものから、各委員会の傘下で実働的な「部会・チーム・同好会・実行委員会」等を立ち上げ、活動を「担い手グループ」へ移行する。

②西益田は広いので、ブロックごと等のまとまりでの活動を模索する。

③他地域自治組織の実践に学び、よい活動を模倣していく。

④他組織などとの連携を模索する。（地域企業・観光協会　など）

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度も、コロナウィルスの影響により思うように活動ができない部分もありました。が、今年も中学生から「灯火祭がやりたいです！」と声があがり、一緒に地域を盛り上げる活動ができました。また、まちづくり活動に積極的にボランティアとして参加してくれる中学生も増え、地域を支える若い力が増えていることに嬉しさを感じています。まちづくりの大きなテーマは“つながり”だと思っています。令和２年度から始まった「灯火祭」をはじめ、いろいろな活動に興味を持って一緒に取り組んでくれる人たちが増えつつあることは、これからのまちづくりにとって大切にしていきたい部分のひとつです。

二条地区

地域魅力化応援隊員　氏名　堀 江 宗 仁

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

二条公民館（ 管轄 ： 上黒谷町・桂平町・黒周町・柏原町・愛栄町 ）

2.　配置年月

平成 29 年 4 月 1 日

3.　活動の概要

①　活動の内容

○令和４年５月１５日に「令和４年度　定期総会」を開催した。

○「 令和２ ～ ７年度　元気なむらづくりプラン　Part.2 」と「 活動計画 」（ ６カ年プラン ）を、実践中である。

（定期総会）

○　益田市より交付される「 まちづくり活動交付金 」の申請書作成・提出、交付決定後の請求書作成・提出、及び「 まちづくり活動特別補助金 」の見積書提出依頼・収集、申請書作成・提出、プレゼンテーション用 PP（ パワーポイント ）作成、プレゼンテーション参加・説明・PP 操作、写真撮影・まとめ、交付決定後の請求書作成・提出業務。

○　上記「 交付金 」・「 補助金 」入金後の会計処理業務。

○　上記「 交付金 」・「 補助金 」にて導入（ 購入 ）した備品の材料検収、及び「 物品台帳 」への登録業務。

○　本会の「 総会 」・「 役員会 」・「 各部会 」・「 合同部会 」開催時の案内ライン・メール送信、資料作成、開催時の説明・提案、写真撮影・まとめ、及び「 議事録 」・「 議事要旨 」の清書・押印受け回し・印刷業務。

○　「 定期総会 」時の「 議案書 」の原案作成、推敲、印刷発注業務。

○　各種事業実施時の資料作成、随行・参加、写真撮影・まとめ業務。

○　各方面からの視察団受け入れ日時等の調整、資料（ 主に PP ）作成、会場準備、随行・参加・PP 操作、視察基本料・資料代等の会計（ 入金 ）管理、写真撮影・まとめ業務。

○　１ ～ ２ヶ月毎に地区内全戸配付する「 便り 」の作成・印刷業務。

○　各種研修への参加、写真撮影・まとめ、復命書作成・提出業務。

等々に従事し、地域魅力化応援隊員としての業務と二条公民館での業務もこなしている。

② 活動の成果及び効果

○ 今年度は、コロナ禍でも以下の活動に取り組み、それぞれに効果があった。

・「旧西南中跡地利用問題」は、山本市長に要望書を提出し、以後継続中である。

・コロナ感染対策で中断していた視察受け入れを再開して、７月に「京丹後市視察団」、８月に「中四国農政局」、１０月に「秋田県能代市視察団」、２月には「三次市・庄原市・今治市・安芸太田町の議会議員視察団を迎え入れた。

・研修会も徐々に回数を増し、７月の「グリーンウッドオンライン研修」、１０月の「二条ふれあい祭り」に伴っての「炊き出し訓練」、又１１月の「クマから身を守る方法研修会」等、地区を巻き込んでの開催に繋げた。さらに、３年ぶりに、「第１７回ひとづくり・地域づくりフォーラムｉｎ山口」の研修会に参加する。

・ふるさと便（中元・歳暮）の発送作業も実施した。

・まちづくり特別補助金で導入した「エンジン式薪割機・チルホール」の実演講習会も開催し、今後の地域内での積極的な活用にめどが立った。

・３年ぶりの「２０２２益田 INAKA ライド」のエイドステイション運営に、参加協力して、全国からのライダー２００人をお迎えした。

・毎年継続開催している「どんぐりの森づくり活動」、「ミニ門松づくり」等の行事にも協力して、徐々に地域住民の活動が活発になってきた。

4. 残された課題と今後の提案

○ 「空き家 」の減少促進、「 UI ターン者 」の誘致とサポート

○「 親子で芋ほり体験会 」等、「 お試し体験古民家住宅“ つどい ”」を活用しての交流人口の創出

○「 どんぐりの森づくり活動 」等、次世代育成事業の展開

○ 調査・実施・振り返りをサイクル化した「 有害鳥獣対策 」の更なる進化

○ 「 竹チップ・パウダー 」の製品化、販売ルート探しとブランド化

○ 「 放置竹林 」や「 耕作放棄地 」の解消

○ 「 二条ふるさと便 」の継続受注と販売

○ 「地域マネージャー制の採用と法人化」

○ 「旧西南中学校の跡地利用問題」

○ 「買い物、通院等の新たな移送事業」の展開

等が、当面の課題であり、解決策を皆で探ることが今後の問題として残っている。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

○昨年同様「地域マネージャー制の採用と法人化」に向けて、進展が見られなかった点がとても残念である。

美濃地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大庭　真弓

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署
　　美濃地区

2.　配置年月
　　令和４年１月から

3.　活動の概要

①活動の内容

【地域の魅力化に向けた取組(★地域自治組織２部会、☆地域内協力団体)】

★結い学び部会

・地区外へ広報紙郵送
・歴史の掘り起こしと継承事業
・健康教室　歴史ウォーキング
・しめ縄づくり
・どんど焼き
・SNS の勉強会
・その他

★てごすけ部会

・外出支援事業「てごすけ号」の運行支援
・収益事業(草刈機械等の貸出)
・おたすけ隊事業(軽作業、草刈)
・ひまわり畑播種
・菜の花畑播種

☆ぼんぼりの会

・〈夏〉ぼんぼりロード〈冬〉イルミネーション

②活動の成果及び効果

〇地区内の多世代交流を目的とした催しが開かれた。
〇歴史をテーマに一貫した取組が継続出来ている。
〇環境整備することで地域の景観を保全している。
〇地区外にも PR し人を呼び込むことで地域の活性化に繋げていく

4.　残された課題と今後の提案

　地域の高齢者や、若者、子供たちに呼びかけをして、安心、安全な住み良い暮らしを維持するためのまちづくりを提案し、地区全体で、地域のあるべき姿や課題等を話し合い、一緒になって、地域活動をしていくことが必要だと感じています。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

　地域魅力化応援隊員に任用され、いま一年間が経過しました。まだわからないことが沢山あり、中々スムーズに仕事が出来ない状況です。少しずつでも地域の皆さんとの親交を深めていき、力を貸していただきながら、「はつらつ美濃の里」を発展させていけたらと思っています。

小野地区

地域魅力化応援隊員　氏名　宮内　英之

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

小野公民館

2.　配置年月

平成３０年４月

3.　活動の概要

（１）活動の内容

小野地区においては、平成２９年３月に「夢あふれる小野の里」を設立して以来６年目を迎え、応援隊員としての活動は、同組織の活動方針に沿って事務的な支援を行った。

「夢あふれる小野の里」においては、令和３年度で「第１次地域づくり計画」を終了し、令和４年度から３か年計画として「第２次地域づくり計画」に基づく事業展開へと移行した。これまで同様に“地域づくりと人づくり”、そして“３つの部会の取組み”において事業を実施している。

①　地域づくりと人づくり

人材育成を進めていくために、研修会への参加や先進地視察等に積極的に取り組むことを基本にすすめてきたが、「新型コロナウイルス」の影響等により参加者が少なかった。

また、毎年活動計画に掲げている「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」への参加については、今年は２月下旬に開催される予定であり、全国各地団体からの先進的な事例発表を拝聴する等、積極的に参加したいと考えている。

②　各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■　「子ども見守り活動」の支援

戸田小学校児童の登下校時における見守り活動を主体的な活動内容として、令和２年度から活動を開始している。

コロナ禍の中でありながらも、各地区で選任された隊員さんが連日のように活動に参加され、子どもたちを温かく見守っていただいている。

対応された隊員から、「おはよう！と声をかければ、大きな声で返事が返ってきて、子供達から毎日パワーをもらっている。」等々、嬉しい報告をいただいた。

■　「草刈り隊活動」の支援

令和２年度から地域の「お助け隊事業」として実施している「小野地区草刈り隊」について、今年度も継続して事業を実施した。この事業は、家周辺の草刈り等の環境整備ができなくなり困っている世帯を対象にして、依頼者の要望に沿って作業を行っている。

今年度も昨年度並みの実績であり、地区内全体で１３件対応した。また、草刈り活動の充実を図ることを目的として、「益田市まちづくり活動特別補助金事業」を活用し、刈払い機等の機器を導入した。

今後この機材を有効活用して業務体制をさらに充実させていきたい。

■　若者の活動支援

若者の交流の場「しゃべり場」を定期的に開催し、活動について協議を行った。一昨年度より新たな取組みを企画し、「灯篭の灯りで地域を明るくしよう」ということで、「灯りをともすイベント」を実施している。

今年度も昨年同様にアルミ缶を使用した手作りの「缶灯篭」を作成し、１２月初旬に小野公民館において、灯りをともすイベント「明るく灯そう　キャンドルフェスタ」を開催した。

地区内外から多くの方が来場され、イルミネーションに合わせて、「夕暮れのともしび」を観賞された。

また、鎌手地区で活動されている「チャームラボ」のみなさんと、交流会を実施した。「チャームラボ」さんが作られた『オリジナルブレンドコーヒー』をいただきながら、お互いの活動等についての情報交換を行い、とても有意義な交流会であった。

■　鳥獣被害対策の推進

現在中山間地域においては、水田や畑を中心にイノシシ、サル等による農作物への被害が発生しており、小野地区内でも年々被害が急増している。このような状況を踏まえ、今年度からスタートした「第２次地域づくり計画」の重点課題として取組みを進めている。

まず初年度の取組みとして、地区内の被害状況や地区民の意見・要望等を把握するためアンケート調査を実施した。今後においては、他地区の対策事例等も参考にして取組みを進めていきたい。

【健康福祉部】

健康福祉部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■　地区民の健康増進に向けた取組み

地区民の健康増進向上に向けた取組みを行うことを目的として、令和３年度「益田市まちづくり活動特別補助金事業」を活用し、全自動血圧計やデジタル体重計等の健康機器を導入した。

小野公民館内の片隅に健康チェックコーナーを開設し、日々来館された方が利用されている。

また、今年度から公民館事業の新たな取組みとして、「健康ウォーキング教室」を新設し、毎月定例日に有志の方が参加して、機器の有効活用に努めている。

■　検診受診の啓発活動実施

啓発活動として、小野地区ふれあい文化祭において、「検診・健診に関する記事」をパネル展示した。

また、“呼びかけ文書”を差し込んだポケットティッシュを配布し、「検診を受けることの重要性」についての呼びかけを行った。

■　「認知症サポート」の取組み

高齢者支援の学習を行うこととして認知症サポーター養成講座（仮称）を企画し、開催に向けて市担当課、学校等の関係機関と協議を行った。具体的な取組みについては、担当部会で小委員会を設置し協議を行っている。

【生涯学習産業部】

生涯学習･産業部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■　「おの産直市」の実施

「新型コロナウイルス」の感染予防を考慮し、昨年度、一昨年度と同様に１２月に１回のみの「産直市」を実施した。

当初は「小野探訪ウォーキング」を同一日に開催する企画をしていたが、あいにくの悪天候によりウォーキングはやむを得ず中止し、産直市は公民館室内で実施した。

寒波到来により集客面を心配したが、販売開始３０分前から行列になる程の人出で、地区内外から約１７０名の方が来場しとても賑やかなイベントであった。また、地元中学生が販売等の体験活動に参加し、来場された方と楽しいふれあいのひと時を過ごされたようです。

（２）　活動の成果及び効果

この３年間はコロナ禍に制限され、物事が計画どおりに実施できない状況であった。とくに今年度は「第２次地域づくり計画」の初年度として、各専門部会における課題の整理を行ってきたが、具体的な取組みとしてはまだまだ進展していない状況である。

今年度の各専門部会の活動に対する成果として、次の事業を推進することができた。

① 令和２年度から実施している「子ども見守り隊」の活動を継続実施した。
② 令和２年度から実施している「草刈り隊」の活動を継続実施した。
③ 新たな事業項目である「鳥獣被害対策」についての活動に着手した。
④ 「認知症サポーター」の取組みについて着手した。
⑤ コロナ禍の中で、時期を考慮しながら「おの産直市」を実施することが出来た。

上記５点の内容が実施できた活動項目である。それぞれの項目において多々課題は残されているが、更なる内容の充実に向けて協議・検討を進めていきたい。

4. 残された課題と今後の提案

今年度より新たに３年間の取組みとして、「第２次地域づくり計画」の事業方針に沿って活動を開始した。しかしながら「第１次地域づくり計画」より継続事項となっている課題等も多々あり、これらを解決するために役員をはじめ各部会員との連携を密にし、さらに地区民に状況を分かりやすく伝達して、「地域ぐるみの活動」に取組んでいきたいと考えている。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員となって、早５年目を終えようとしている。昨年、一昨年同様にコロナ禍の影響を受けて計画通りの取組みが出来ず、一日も早く「コロナウイルス」が終息することを願っている。

「夢あふれる小野の里」においても、多くの課題が山積みされているが、今まで以上に地域の声が活動に反映されるよう、部会主流による事業展開に向けた取組みを構築していきたいと考えている。

東仙道地区

地域魅力化応援隊員　氏名　青戸 美奈子

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   東仙道公民館

2. 配置年月
   平成２８年４月

3. 活動の概要
   ① 活動の内容
   ・東仙道ちいき協議会全体
   全体会議、東仙道花園ライトアップ事業、東仙道プロモーション事業、神寶山八幡宮の PR
   ・互助部会
   部会議、東仙道お助け隊事業　お買い物バスツアー事業
   ・地域活性化部会
   部会議、四ッ山歴史ウォーキング、ふるさとカレンダー事業、東仙道桜を見る会、運動会、文化祭
   ・福祉健康部会
   部会議、グラウンド・ゴルフ大会、東仙道寺子屋事業

   ② 活動の成果及び効果
   ・東仙道ちいき協議会全体
   今年度もコロナ禍ではあったが、感染対策を行なった上で開催という方向で協議を重ね、運動会を除いて全て開催に至った。
   令和２年度のまちづくり活動特別補助金を活用し開始した「東仙道花園ライトアップ事業」では、今年度も引き続きひだまりパークみとの桜、三番道路桜のライトアップ（３月）、彼岸花ライトアップ（９月）、仙道バス停もみじライトアップ（１０月）、神寶山八幡宮鳥居ライトアップ（１１月）を行なった。
   神寶山八幡宮については、のぼり旗を国道から八幡宮への入り口、八幡宮の敷地内と鳥居横に設置したほか、「四ッ山歴史ウォーキング」で、小学生が作成した八幡宮についてのパネルを展示するなど、日本遺産の認知度を上げるとともに地域にある構成文化財に関心を持って

もらおうとPR活動をした。

また、昨年度から開始したドローンやアクティブカメラを使用して撮影した映像を SNS や動画投稿サイトに投稿してプロモーションする「東仙道プロモーション事業」ではSNS投稿のほか、ドローンで撮影し、編集した各地区上空からの映像を文化祭で上映する予定であり（３月５日）、今年度の「ふるさとカレンダー」のテーマも「ドローンで見る東仙道」となっている。

映像について希望があればDVD化もしたい。

【彼岸花ライトアップ】

【ドローンで撮ったさくらドーム】

・互助部会

「東仙道お助け隊」では、草刈りや木の伐採等の依頼が２２件あり、のべ４２名の隊員が作業にあたった。

困ったときに気軽に声をかけてもらい、お互いに生活を支えられるよう息の長い活動を続けたい。

また、（株）キヌヤさんの協力を得て行なっている「お買い物バスツアー」も、通常通り行う事ができた。

免許返納などの理由から新規利用者も増え、お買い物バスがないと困るとの声が寄せられている。

・地域活性化部会

「東仙道桜を見る会」は、中止したが、「美都いちごまつり」に手伝いとして参加した（令和３年度３月）。

令和５年の「東仙道桜を見る会」は、ひだまりパークみとのコース内から夜桜見物をできるよう準備を進めている。

ひだまりパークみとは桜の名所として地区内外からたくさんの人が訪れるようになったので地域全体でさらに盛り上げていきたい。

「四ッ山歴史ウォーキング」は開催方法を協議し、コロナ禍であった

が地区内外から６２名の参加があり、無事開催することができた。
「運動会」は地区の参加はなしで小学校と保育所のみでの開催となった。
７年目となる「ふるさとカレンダー事業」では、各地区の上空をドローンで撮影し、その画像を使用して作成中である。
自分が住んでいる場所を上空から見る機会もないので例年のふるさとカレンダーとはまた違ったふるさとの魅力発信となればと思う。
出来上がったカレンダーは、広報４月号と一緒に折り込み、全戸配布する予定である。
例年多くの方から「地区外に住む親戚や友人にあげたい」との声もいただくので、今回のカレンダーも地区内外へふるさとの魅力を発信するとともに、様々な世代間での会話のきっかけになればと思う。
「文化祭」は３年間中止となって４年ぶりの開催になる（３月５日　予定）が、まだコロナ禍ということもあり４年前と全く同様にというわけにいかず、制限をどのように設けて開催するかというところで協議を重ねた。

・福祉健康部会
放課後に小学校の空き教室を利用し、地域の方に見守っていただきながら宿題を済ませて帰るという「東仙道寺子屋事業」が５年目となったが、
新型コロナウイルスの影響に加え学校の方針も家庭学習を重点に置くということが打ち出され、今年度も開催に至らなかった。
今後、開催方法など内容も検討していかなくてはならない。
６月の「グラウンド・ゴルフ大会」は感染予防対策をしたうえで実施することができ、５９名の参加があった。

4. 残された課題と今後の提案
・東仙道ちいき協議会全体
地域の代表１１名が部会員として各部会に所属し、会議を進めているが、事業の運営となると公民館運営委員や各自治会にお願いしないと事業が成り立たない状態である。今後も協力を仰ぎつつ、東仙道ちいき協議会の体制、部会員構成、事業の運営方法についても引き続き協議が必要である。

・互助部会
「東仙道お助け隊」について、草刈りは繁忙期が限定されているので、隊員の負担が大きい。もう少し負担を分散させられるよう、引き続き隊員の確保に力を入れたい。

また、小さな困りごとに対応できるような体制づくりについて協議していきたい。

・地域活性化部会

「ふるさとカレンダー」については、写真提供者が少なく、選定も地域活性化部会員のみで行うため、狭い範囲での作成となってしまうのが課題である。

この取り組みは地域のみなさんから毎年期待の声が寄せられている。より魅力的な内容となるよう、テーマや写真選定方法等について、引き続き協議が必要である。

・福祉健康部会

「東仙道寺子屋」について、学校の方針が家庭学習を重点に置くということが打ち出され、空き教室を使って学校で宿題を終わらせて帰るという事業の内容から見直しが必要となっている。

ボランティアさんの高齢化も進む中、長期休業中の開催などを含め、継続可能な寺子屋事業の広がり等について協議していきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

昨年度までの「感染防止のため中止」という流れから徐々に「感染対策を行なった上で開催」という流れに変わりつつある中、ほとんどの事業を開催することができたが、唯一「運動会」だけが小学校と保育所のみの開催となった。

寺子屋も開催できない中、小学生対象の事業がないため、地域と子どもとの距離がだいぶ離れてしまったように感じる。

来年度はもっと子どもたちをはじめ地域の人と人がつながり、他機関とも連携して地域全体で助け合っていけるような東仙道ちいき協議会の体制づくりや事業の進め方等に取り組んでいきたい。

匹見上地区

地域魅力化応援隊員　氏名　檜谷　望

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

匹見上地区

2.　配置年月

令和３年４月１日

3.　活動の概要

①活動の内容

□地域自治組織事務局、その他会議出席、公民館グラウンドゴルフ大会（春・秋）

□役員会・委員会

□第３回匹見上清流の郷通常総会

□公民館運営委員との合同視察研修

□雲南市視察研修

☆魅力発信

①便り「匹見上清流の郷から」を作成、発行、
イベントのポスター、チラシ作成

②匹見上清流の郷イベントジャンパー作成（Ｒ４．３月）

③地域資源を活かしたイベント、
百歳体操でのイベント告知（１０/２６：健康教室）

匹見上清流の郷
イベントジャンパー

☆支援

①匹見地域の高齢者の移動支援に関する意見交換会

②第１回匹見上清流の郷健康教室

③地域《百歳体操、支え合いマップ》

☆環境保全

①鳥獣被害対策研修会、動物駆除用煙火花火販売
動物駆除用煙火保安講習会（鳥獣対策用品：赤い帽子配布）

②箱罠貸出

②活動の成果及び効果

□地域自治組織の事務局として役員会、委員会議案の作成や議事録作成業務、イベントの企画補助、ポスター、チラシの作成などをしました。他会議出席として、議会報告会、匹見圏域第２層協議体（支え合いづくり協議体）へ、出席しました。グラウンドゴルフ大会への参加もしました（会長賞用意）。

□役員会・委員会…今年度の委員会は魅力発信、支援、環境保全の３本柱を委員でグループに分けて協議、全体に報告という形をとりました。全体の委員会では意見があまり飛び交わず話す人が決まっていましたが、たくさんの意見がでるようになりました。今後も続けていく予定です。

魅力発信グループ

支援グループ

環境保全グループ

□第３回匹見上清流の郷通常総会…今年度はＲ４年５月２８日に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、書面決議となりました。今年度も全ての議案について過半数の賛成をいただき、可決されました。

□公民館運営委員との合同視察研修…例年行っている匹見上公民館運営委員との合同視察研修は、今年度は１２月６日に真砂・豊川地区へ行き、真砂地区では、食育活動としての野菜づくり、お買い物バス、カフェ、太陽光ソーラー、自治会、部会、複合施設の模型観察、豊川地区では、とよかわっしょいの支援、とよかわの家、とよかワゴン、部会、自治会、フルーツガーデン見物、短い時間で時間が足らないほどでした。昨年は２月に３つの地区に伺いました。参考にさせてもらい、匹見上地区を良くしていきたいと思っています。

視察）真砂地区

視察）豊川地区

□雲南市視察…１０月２７日、中野・羽多・鍋山交流センターへ行き、それぞれの地区の取りみや行っている事業について説明を聴きました。今回は応援隊員と地域マネージャーのみでの研修だったので直接地域自治組織の委員さんには資料を見ていただいて資料の内容について質問等あれば繋いで直接交流が出来れば良いと思いました。

☆魅力発信

①今年度の便りは第８号から第１４号まで作成し、今年度も通常総会可決報告や、６月開催の鳥獣被害対策研修会、９月開催の星空を楽しむ会、１０月開催の健康教室のお知らせ等について利用し、あわせてポスターやチラシも作成しました。イベントでは匹見町外からの参加も多数あったので今後も続けていきます。周知期間が短く反省するところもあったので次年度は早めの周知を心がけたいです。毎週開催の百歳体操でのイベント告知をさせてもらったお陰で多数の参加に繋がる効果もありました。

②匹見上清流の郷イベントジャンパー作成については、令和３年度末の取り組みで、長年作成したいと思っており３月に完成しました。様々なイベントで着る機会があり、赤色でスタッフと参加者の区別がすぐわかるので、作成してとても良かったです。

星空を楽しむ会①

③地域資源を活かしたイベントでは、９月に星空を楽しむ会、１１月におとなの遠足を開催しました。どちらも自然相手のイベントで９月の星空を楽しむ会は当初夏季のイベントで、日暮れも遅く開始時間に悩みました。天候の心配もあり、９月に予備日を設定し周知を開始しました。第１希望日は星空を期待できない天候だったため諦め、第２希望日の９月３０日に開催しました。当日は空いっぱいの星に恵まれ、参加者からは“大きく視界が開けていて良かった”“芝生が柔らかく、寝転ぶと気持ちよかった”“綺麗な星空を眺

星空を楽しむ会②

めることが出来、良い時間でした”とお喜びの声を頂きました。大きな望遠鏡を持参された方もおられ、スタッフは興味深く一緒に組み立てていました。今年度初めての取り組みでしたが２４名参加しました。《匹見中央公園にて》

１１月のおとなの遠足については、紅葉イベントとして開催にいたりました。やはり自然相手のイベントで、前日まで天候を心配しました。当日もスタート地点は小雨が降っておりましたが、大雨になることなく、無事に昼食場所の平田淵に到着しました。自由時間となりゆっくり紅葉を眺める方、温かいコーヒーを作って飲む方と様々でした。レストパークに戻り、好きな飲み物と手作りスイーツをいただきました。裏匹見峡の遊歩道を往復６時間かけてゆっくり歩きました。途中には講師からきのこの説明があったり、クロモジの説明をいただいたりしました。１０名定員で、参加者１０名、スタッフ６名の１６名で歩きました。《匹見峡レストパークにて》

おとなの遠足①

おとなの遠足②：クロモジの説明

☆支援

①匹見地域の高齢者の移動支援に関する意見交換会では、匹見上公民館と一緒に令和３年度２月（Ｒ４/２/３～）より高齢者の移動支援について協議を行ってきました。現在、総合事業訪問型サービスＤについて勉強中であり、匹見地域の現状等把握、確認しているところです。次年度も一緒に高齢者福祉課等関係機関との連携を取りながら匹見上地区に合った事業を見つけて行っていきたいです。

②“匹見峡温泉を核にしたイベントを開催したい”とグループ協議、委員会で何度も協議し、益田運動公園より講師を派遣してもらう為に、事前打ち合わせも行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、７月に開催予定でしたが延期、認知機能低下を予防する体操としてテーマを掲げ、１０月２６日に開催しました。定員３０名で呼びかけ、便りやチラシ等で宣伝しました。受付締切日には２２名集まりました。講師としてお越し頂いた匹見地域総務課保健師からは“お会いしたことがない方が参加されている”と言って頂きましたので嬉しかったです。今年度初めての取り組みとして行った健康教室でしたが、開催でき“初めての参加だったけど楽しい一時でした。又参加したいです。”“高齢の自分でも楽しく出来まして有難うございます。”との嬉しいお言葉をいただくことが出来たので次年度も続けていきたいです。

健康教室①

健康教室②

③百歳体操では今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の為何度か休止としましたが、新たな加入者もあり、毎週金曜日のみですが地域の貴重な交流の場です。今年度初めての健康教室のイベント告知をさせていただきました。皆様の貴重なお時間をいただき感謝するとともに、多数の参加に繋がり、委員、事務局ともに喜びました。

健康教室③

④令和３年度に三葛地区で完成した支え合いマップについて住民の方

からご意見をいただいたので、マップを見直すこととしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、時間調整が難しいところがあり、マップについてはすぐに完成できるものでなく、時間をかけてでもやはり住民の方が納得出来るものを作りたいと思っているので、協議をしっかりした上で完成させたいと思いました。次年度も協議、マップの更新等続けていきます。

☆環境保全

①令和３年度に開催出来なかった鳥獣被害対策研修会は６月２５日に開催し、周知期間が短く少人数でしたが、参加者からの質問がいくつかあり、有意義な時間でした。今年度３月初め頃には自治会単位の鳥獣駆除・被害対策の勉強会を実践形式（実際に煙火花火を発砲等）で開催予定としております。今後も座学形式での研修会も行いますが、実践形式の研修会も増やしていきたいです。

鳥獣被害対策研修会

〇研修会より…猿は赤い色を認知しやすく、“赤い帽子を被って花火を打つと、赤い帽子を被った人間は怖い”と覚えさせることができるということで、９月１１日の煙火花火講習会には赤い帽子を講習者全員に配布しました。

煙火花火講習会と配布した赤い帽子

②猟友会への箱罠提供数は令和３年度末より４基となり、現在報告が来ている捕獲数として、９月末時点で８頭報告がありました。今後も貸出を続け、予約出来ることも放送等で広く呼びかけていきたいです。

4.　残された課題と今後の提案

今年度、匹見峡温泉での健康教室、匹見中央公園での星空観察会を開催し、認知度は少しずつ上がっているのではないかと思っていますが、今年度も、委員の人数については変わりありませんでした。どこの自治会も担い手不足となっていますが、たくさんの方に委員の構成員として意見を言ってもらい、一緒に匹見上を良くしていきたいと思っています。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

自分に自信が持てない人間で、今年度初めての取り組みが３つあり、とても不安でした。そうした中でも、委員さんとよく相談し、準備から当日までサポートいただき、それぞれのイベントで参加人数が思った以上にあり、お喜びの声をたくさんいただき、成功したので少し自信がつきました。

来年度も“感謝すること。細かいミスに気をつけること。”を忘れないよう強く意識し、活動していきます。

匹見下地区

地域魅力化応援隊員　氏名　寺西　泰一

令和４年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1.　配置地区　　匹見下地区

2.　配置年月　　令和４年９月から

3.　活動の概要　※着任以降について記載

・いきいき 100 歳体操

高齢化が進み、住民の参加意識・移動負担の軽減などを考慮し、いいの里会館での実施のみならず、広瀬と石谷地区においても開催。

（いいの里会館　第２・４火曜　　広瀬　第３木曜　　石谷　第１火曜）

昨年度はコロナの影響で予定していた４８回の内１３回が中止。

今年度はこれまで２７回の内、３回の中止（１回は台風のため中止）。

参加者数…延べ 182 人（1 月現在）

1 回あたりの参加者数 7.6 人（昨年度 8.0 人）

概ね前年度並みの参加

体操だけでなく、保健師や歯科衛生士さんも参加され、健康維持についてのお話をされるのが有効に機能していると思います。

また、体操後、「お茶の会」として、お茶を飲みながら、季節の話題、地域の状況、昔話などを話しています。どの顔も笑顔となり、いきいきと話をされる表情が、非常に印象的です。

さらに、撮りためた地域イベントや景色をまとめた動画を上映することもあります。楽しんで見ていただけるので、撮影や編集の手間も苦になりません。

体操とおしゃべりが毎回楽しみです。

・グラウンド・ゴルフ

ナイターを年間５回、広瀬で１回開催。

毎回１４名前後が参加され、おしゃべりを楽しみながらプレイされています。

日頃、独居の方も、近所の方に誘われ、笑顔で参加されている姿が印象的でした。

着任後、グラウンド・ゴルフの様子を撮影し編集。地域の方の前で上映したとき、これまた、笑顔と笑い声とともにご覧いただけたので良かったです。

・動物駆除用花火資格更新

更新２３名　５年更新５名　新規１名

・匹見圏域　第２層協議体（主催：社協匹見支所）

毎月、道川・匹見上・匹見下のいずれかで開催。

３つの地域の活動報告をする場であり、また匹見全体、益田市の情報を共有している。

他の地域の活動を聞くことは自地域での活動の参考になる。

活動報告に続き、地域課題についてテーマ設定し、話し合っている。

テーマ例…スマートフォン・防犯と事故・除雪・見守り

会議を通して顔がつながることにより、様々な課題や悩みを相談でき、大変ありがたいと思います。

・匹見下レクリエーション大会

これまで、秋に行ってきた地区民運動会。今年度は、匹見下レクリエーション大会として再出発。より多くの方に参加いただきたいと、モルックやボッチャといったNewスポーツ。輪投げ、玉入れなどの軽スポーツ。グラウンドゴルフを実施。参加へのハードルが下がったことで、皆さん、気軽に参加。園児からお爺ちゃんお婆ちゃんまで合わせて５５名がスポーツを楽しみました。

益田市内からレクリエーション協会の方も講師として参加され、Newスポーツのルールや楽しみ方を指導いただきました。

やはり、スポーツは、身体を動かすとともに、思わず声も出るのでいいなと思いました。

この様子も記録ビデオとして残しました。地域のイベントを記録として残すことは意義あることと感じるとともに、これまでの経験が生かせてありがたい事だと感じています。

・匹見小中学校　わさび収穫祭

小学５年生以上の子供たちが「わさびを使った料理」を考案。それらの中から選ばれた３つの料理と、地元の方が教える郷土料理「うずめ飯」を全校児童・生徒、先生らとともに作りました。

こうした、特産品を使った料理を通して、ふるさとの事を勉強できるのはいい機会だと感じました。

作った料理は、３つの地域からお集まりいただいた来賓の方にふるまわれ、一緒に食事を楽しんでいました。

4. 残された課題と今後の提案

・移動手段の確保…免許を返納すると移動手段がなくなる・集落から移動することができなくなる。

・買い物支援…移動手段がなくなると買い物に困る。

以上、2つの件につき、生活環境委員会でアンケート調査を実施。

皆さんの声を集約し、対策を検討予定。

・次代の担い手不足…例えば草刈りができない

地域外の取り組み方などを参考にして、課題解決に取り組むことができればと考えています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

９月に着任して以来、毎日、地域の方のお顔とお名前を覚えることに必死でした。様々なイベント・会議などでは、ノートに名前を書いたり、地域を訪ねた時には地図に名前を記入したりで少しずつ覚えてきました。

逆に、地域の方、お一人お一人に顔を覚えていただいて、微力ながら、皆さんのサポートをしていければと考えています。

また、諸課題についても、地域内での話し合い、地域外の研修会やイベントなどに、より多く参加してフィードバックできればと考えています。

地域魅力化応援隊員　氏名　高田　純子

令和４年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署
　道川公民館

2.　配置年月
　平成２６年４月

古代小豆の種まき

3.　活動の概要
①活動の内容
■地域自治組織活動支援
☆組織運営の支援
・組織を構成する各種団体及び地域住民との連絡、調整、会議、運営の支援、研修会、講演会等の調整、実施。関係機関との連絡、調整等。
☆まちづくり計画及び活動計画に沿う活動の支援、公民館との協働。
・賑わいづくり　・ひとづくり　・暮らしの安心づくり
☆益田市生活支援体制整備事業　第２層協議体(社協との連携)
☆匹見地域３自治組織が関わる事業
②活動の成果及び効果
【組織運営の支援】
■総会、役員会、　企画委員会　合同会議　各種地域活動企画会議　の実施

☆地域内交流事業についての協議
７月５日　役員会開催の際
・盆踊り大会・・・中止
・地区民運動会、地区民親睦交流会
　状況を見ながら判断する・・・中止
12 月８日　役員、企画委員合同会議開催の際
・新年あいさつ会　・・・R5.1.1 実施

【まちづくり計画に沿った活動支援】
■《賑わいづくり》関係人口の拡大
☆人が集まる機会を創る活動　☆地域の「宝」を活かす　☆里山の景観を活かす
○「古代あずきプロジェクト」
「縄文遺跡が多く見つかっている地域であることは、昔から、自然豊かであ

ったことの証拠であり広く PR していきたい。」との声から今年度よりスタート

・6/12 種まき…チラシ、フェイスブック等で地区内外に呼びかけ　40 名参加

・栽培地の維持管理、適時の収穫…住民有志　（収量　約 10ｋｇ）

・11/5 収穫体験及び試食会の開催…15 名参加

・古代あずきの販売、加工品（おこわ…加工グループすずしろ市）販売

・明誠高校キャリアサポート活動と連動

３年生（種まき　看板作成）　　２年生（収穫　商品ラベル作成）

○【「ひまわりを咲かそう！」地域に元気と笑顔を】２年目

６月 12 日　種まき（道川地区多面的機能保全活動組織と協同作業　40 名参加）

○菊花展の開催　苗づくりから菊花展、秋、冬の育成・・・通年管理

○8 月 7 日　旧道川小学校・公民館周辺環境整備　　6 月 24 日　道の駅環境整備

☆情報発信　　http://michikawa.info

・ホームページ、フェイスブック、英語神楽（道川神楽社中）ＰＲ動画配信等

■《暮らしの安心づくり》

☆暮らしを守る活動　☆生活環境を守る活動

支え合いの仕組みづくり

現状把握として、昨年、概ね 70 歳以上の方から聞き取り調査を実施し、内容分析を行った。「人のために何かしたい」と答えた方が多かったため、今年度は、その結果を踏まえ、調査内容を絞込み、全住民にアンケートを実施。回答率 81%

結果内容を全戸に周知

仕組みづくりに向けて、地域ぐるみで考える機運の醸成に努めた。

☆地域防災活動

・緊急情報キット確認…年 1 回の登録台帳の確認の呼びかけ、変更有に対応。

・避難訓練…中止

防災意識の持続、向上を図るため、

12 月　チラシ、防災グッズを全戸に配布。

■《ひとづくり》

☆歴史文化をつなぐ

○7 月 24 日　「道川地区の歴史、遺跡巡り」勉強会を開催。

○5 月 11 日美濃地屋敷は屋根の葺き替えの為休館中。管理人を中心に勉強会を実施。

○10 月 15 日(土)美濃地屋敷の屋根の葺き替え工事の見学、作業体験会の開催。

☆地域のつながりを育む　☆一人一人の個性を育む・・・学び合い活動

○心と体の健康づくり

高齢者サロンと介護予防を兼ね、公民館と連携し、健康教室（5 月～12 月毎週 1 回、計 30 回　延べ 371 人）お出かけ講座(地区内 3 ケ所)、お楽しみ教室等を実施し、隣近所、住民同士、地域全体で見守り、支え合うつながりの維持に努めている。

○地区民交流事業　　10 月 24 日　敬老の集い

4　残された課題と今後の提案

地域で考え、すべきことは多い。今年度、全住民にアンケートを実施した結果から、高齢でありながらも、協力していただけることがまだまだたくさんあることがわかった。何ができて、何ができないか、整理していくことが重要と考える。これまでの歩みを基盤に、ひとりひとり「ワタシ」が何をするか、何をしてもらうのか、人口が少ないからこそできる組織としての運営体制を強化すべきと考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

コロナ禍で迎えた３年目。今年も賑わいづくりの柱としている「食と神楽を活かしたイベント」はすべて中止としました。人は集めないけど、地域の方や道の駅を利用される方に何かしら足を止めてもらう活動に転換し、ひまわりや古代小豆の種まきを行いました。咲き誇るひまわりに多くの方の笑顔をみることができました。小豆の原種は珍しさもあって今後への展開に大きなパワーをくれました。活動を盛り上げてくれた明誠高校の生徒さん、種まきに参加していただいた方々に感謝します。地域に在るものは無限大！暮らしに寄り添った活動の種をまき、もっともっと「道川」の魅力を育てていきたいと思わせてもらった１年でした。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成２６年４月１日
益田市告示第７７号
改正　平成２７年６月１２日告示第１５０号
平成２９年３月１３日告示第４７号
平成３１年３月２９日告示第９０号
令和元年５月１日告示第１号
令和２年３月３１日告示第９６号

（趣旨）

第１条　この要綱は、公民館等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（配置）

第２条　市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の公民館に応援隊員を配置することができる。

(1)　益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成２９年益田市告示第４６号）の規定による補助金の交付対象となる団体

(2)　益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成２７年益田市告示第１１号）第５条第２項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

２　前項の規定にかかわらず、益田市地域マネージャー等雇用交付金交付要綱（令和２年益田市告示第９１号）の規定による益田市地域マネージャー等雇用交付金の交付を申請する団体の存する地区の公民館には、応援隊員を配置しない。

（任命）

第３条　市長は、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者、地域の実情に精通した者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者を選考し、応援隊員として任命する。

（身分）

第４条　応援隊員の身分は、地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第２２条の２第１項第１号に規定する会計年度任用職員とする。

（任期）

第５条　応援隊員の任期は、その任命の日から同日の属する年度の末日までとする。

（所掌事務）

第６条　応援隊員は、配置される地区における第２条第１項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

（報告）
第７条　市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。
（その他）
第８条　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。
附　則
（施行期日）
１　この告示は、平成２６年４月１日から施行する。
（有効期限）
２　この告示は、令和５年３月３１日限り、その効力を失う。
附　則（平成２７年６月１２日告示第１５０号）
この告示は、平成２７年６月１２日から施行する。
附　則（平成２９年３月１３日告示第４７号）
この告示は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、附則第２項の改正規定は、平成２９年３月１３日から施行する。
附　則（平成３１年３月２９日告示第９０号）
この告示は、平成３１年４月１日から施行する。
附　則（令和元年５月１日告示第１号）抄
（施行期日）
１　この告示は、令和元年５月１日から施行する。
附　則（令和２年３月３１日告示第９６号）
（施行期日）
１　この告示は、令和２年４月１日から施行する。ただし、附則第２項の改正規定は、令和２年３月３１日から施行する。
（経過措置）
２　この告示による改正後の地域魅力化応援隊員事業実施要綱の規定は、令和２年４月１日以後に任命する応援隊員について適用する。

発　行　令和５年３月
発行元　益田市政策企画局連携のまちづくり推進課
〒６９８－８６５０　島根県益田市常盤町１番１号
TEL　０８５６－３１－０６００
FAX　０８５６－２３－７７０８
E-Mail：renkei@city.masuda.lg.jp